# 2018年度
# 栗原ゼミ卒業論文集

SNS　　児童文学

# はじめに

本書は近畿大学文芸学部日本文学専攻創作・評論コースの桒原が担当した演習の卒業論文集です。

今年は２名と少数でしたが、児童文学および子どもの読書離れと、ＳＮＳの利用とＳＮＳ疲れという現代的な問題を取り上げ、その実際の状況を明らかにした上で、独自の見解を述べるという、いずれも充実した卒業論文になりました。

ぜひご一読いただき、講評をしていただければ幸いです。

なお、今年から卒業論文の書式がＡ４になった関係で、本文だけ横長レイアウトになっています。誤字・脱字の修正以外は最小限の変更で公開することにしていますので、いくらか見にくいかもしれませんが、ご容赦ください。

（この点は来年度に向けての反省点にするつもりです）

近畿大学文芸学部日本文学専攻
桒原丈和

# 目次

大人が読ませたい児童文学と
子どもが読みたい児童文学
～子どもの読書離れへの対応～　3頁　林沙南

ネット上における人間関係
―現実世界の環境とＳＮＳ疲れ―　56頁　平山優希

平成30年度卒業論文

# 「大人が読ませたい児童文学と子どもが読みたい児童文学
## ～子どもの読書離れへの対応～」

１５１０６６００６１　林沙南

# 目次


**序章　児童文学とは**　……一頁〜五頁

**一章　大人が読ませたい児童文学**（六頁〜十九頁）

一章―一　青少年読書感想文全国コンクール　……六頁〜九頁

一章―二　『オムレツ屋へようこそ！』　……十頁〜十五頁

一章―三　『ぼくの、ひかり色の絵の具』　……十六頁〜十九頁

**二章　子どもが読みたい児童文学**（二〇頁〜三十六頁）

二章―一　「朝の読書」と「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙」　……二〇頁〜二十三頁

二章―二　『かいけつゾロリ』シリーズ　……二十四頁〜二十八頁

二章―三　『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』シリーズ……二十九頁〜三十三頁

二章―四　『5分後に意外な結末』シリーズ　……三十四頁〜三十六頁

**三章　大人にも子どもにも選ばれている児童文学**（三十七頁〜四十三頁）

三章―一　『二日月』　……三十七頁〜三十九頁

三章―二　『ぼくたちのリアル』　……四〇頁〜四十三頁

**終章　子どもの読書離れへの対応**　……四十四頁〜四十七頁

テキスト・参考文献リスト　……四十八頁〜五十一頁

# 序章　児童文学とは

私は、児童文学には、大人が子どもに読ませたい児童文学と子どもが好んで読んでいる児童文学があると考える。例えば、読書感想文の課題図書や国語の教科書に選ばれている作品は、大人が子どもに読んでもらいたいから選んだものである。一方、子ども達に人気な本は『ゾロリ』シリーズや『おしりたんてい』シリーズである。この、大人が読ませたい児童文学と子どもが読みたい児童文学の共通点や相違点から、子どもの読書離れにどのように対処していけばいいのかを考えていく。

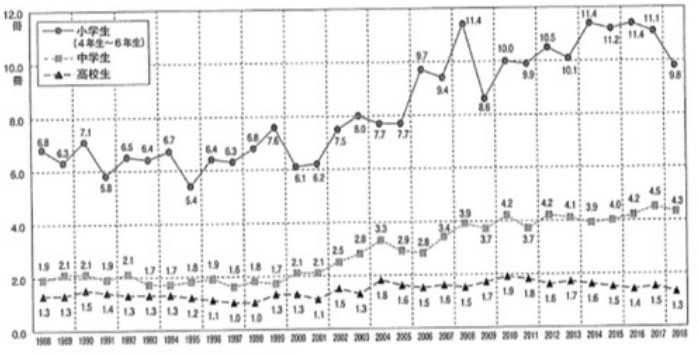
最初に、子どもの読書離れについて考える。特に二〇〇〇年以降は読書離れに関する注目が高まっている。例えば、深刻化する活字離れや読書離れの対策として、参議院・衆議院によって二〇〇〇年は「子ども読書年」、二〇一〇年は「国民読書年」に制定された。そして、「子ども読書年」を契機として子どもの読書活動を推進するために二〇〇一年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が立法化された。このような取り組みのかいがあって、近頃は子どもの読書離れに歯止めがかかったとの意見がある（「一昨年（二〇〇六年）、小学生の平均読書冊数が月9.7冊となり、昨年度（二〇〇七年）も9.4冊であったことで『子どもの活字離れに歯止めがかかったのでは』と関心が高まった。今回の調査では、これらの数値をさらに上回り、11.4冊となった」（「第五十四回学校読書調査報告」　「学校図書館」　二〇〇八年十一月号　十三頁）。本当に子どもの読書離れは解消されたのだろうか。

公益社団法人全国学校図書館協議会が毎月刊行している「学校図書館」では、小学四年生から高校三年生までを対象に「学校読書調査」（五月一カ月の間に本を何冊読んだか）を行っている。図一によると、二〇一八年の小学生の平均読書冊数は前年に比べて1.3冊下がってはいるが、一九九〇年代に比べると平均読書冊数は多い。平均読書冊数が多くなったのは、二章―一でふれる朝の読書活動が定着してきたことが大きく影響していると指摘されている。同じく中学生も、小学生ほどではないが、平均読書冊数は増えている。たしかに数値で見ると、小学生と中学生の読書離れはおおむね解消できているように思える。しかし、いまだに子どもの読書離れが指摘されているのはなぜだろうか。

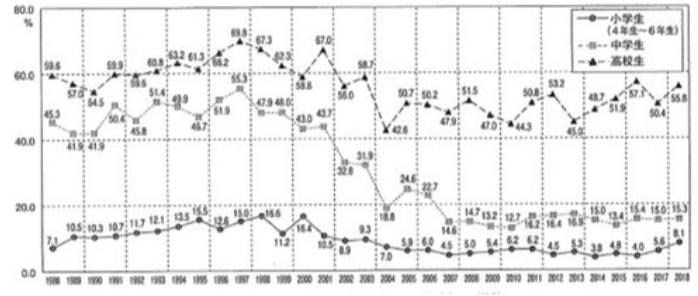
一つ目の理由として、朝の読書でしか読書をしない子どもが多いことが考えられる。図二を見ると不読者率は、朝の読書活動が定着している小学生と中学生は二〇〇〇年代以降の数値が低い。しかし、朝の読書活動があまり行われていない高校生は、多少の増減はあるが、ほとんど変化がない。小・中学生の間は朝の読書で読まなければならないから読書をしているだけで読書が習慣となっていないために、朝の読書があまり普及していない高校生以降は本を読まない子どもが多いのではないか。

朝の読書活動が広まり、小学生の平均読書冊数が大きく増えたことは良い傾向である。しかし、現状ではまだ子どもの読書離れが完全に解消されたとは言い難い。また図二によると、

朝の読書活動が普及している小学生でも不読者は8・1％（二〇一八年）存在する。中学生や高校生に比べると数値は低いが、読みたい本に出会えていない子どももいることは確かだ。




図一　過去31回分の5月1か月の平均読書冊数の推移（「第六十四回学校読書調査報告」『学校図書館』公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一八年十一月号　十四頁）




図二　過去31回分の不読者（0冊回答者）の推移（同上　十六頁）

二つ目の理由として、子どもの「軽読書化」が問題視されていることが考えられる。『軽読書化』の一言では片付けられないがすぐ読み終わる、薄い本を選ぶ傾向が顕著に存在する。」（「しっかり読んで、深く考える―小学校中学年の部」金子卓　「学校図書館」　二〇一四年五月号　二十七頁）とあるように、手軽に読むことのできる児童文学を選ぶ子どもが最近は多く、そのことが「子どもの読書離れ」が懸念されている要因の一つになっているのではないか。要するに、子どもは本を読んでいるが、その本を読書とは認めていない大人が多いと考える。二章―二で詳しく紹介するが、『ゾロリ』シリーズも似たような問題を抱えている。子どもが『ゾロリ』しか読まないことを心配する親や、『ゾロリ』を児童文学と認めていないためか図書館からすべて廃棄する司書もいる。『ゾロリ』を漫画と同じ扱いをする大人が多いため、子どもが『ゾロリ』を読んでいても読書とはみなしておらず、結果的に「最近の子どもは本を読まない」という認識が広まっている。

このように、子どもの読書離れは改善されてはいるが、今も解決はしていない。

ところで、児童文学と簡単に言っているが、明確な定義はない。例えば、『ゾロリ』も『ハリーポッター』も児童文学に分類されているが、この二つは文章量やイラストに大きな違いがある。しかしどちらも児童文学なのだ。児童文学の特徴として『児童文学の教科書』（川端有子）にはこのように書かれている。

「①原則としておとなが、子どもになにかを教え、また楽しませる目的で出版したものである。

②その『子ども』というのは、０歳から18歳にまで広げて考えられる。

③『子ども時代』が尊重される社会におけるたまものである。

④絵本、昔話の再話、小説まで幅広いかたちがある。

⑤作品が書かれた時代やそのときの文化に、かなり影響を受けている。

⑥内容上の制約は書かれた時代によって異なり、現代では原則的にないといっていい。」

（『児童文学の教科書』　川端有子　二〇一三　玉川大学出版部　十四頁）

②で、児童文学がターゲットとしているのは０歳から十八歳までの子どもだと書かれている。０歳の子どもは当然だが字が読めないので、大人が絵本を読み聞かせる。しかし十八歳となると、もはや子どもと断言するのも難しい年ごろになってくる。二〇二二年に、成人年齢を二十歳から十八歳に引き下げることが決定していることをふまえると、やはり世間一般からすると十八歳は大人にみられているように思う。

また、日本大百科全書（https://japanknowledge.com）によると、児童文学とは、

「大人が子供をおもな読者と想定して創作した文学。形式上、絵本、童話、小説、童謡、詩、戯曲などの純創作に、神話、伝説、昔話などの再話、『ロビンソン・クルーソー』のよ

うな本来大人の文学で子供によってこの分野に含まれたものの再話や、広く知識の本までをも含み込む。」

と書かれている。これは『児童文学の教科書』の①と④に近い。子どもというのは何歳から何歳までを指すのかは書いていないが、児童文学は、「大人が子どものために書いた文学」ということは言えそうである。

次に『児童サービス論』（中川佳樹）を紹介する。この本では、公立図書館における子どもに対する図書館サービスについて論じられている。『児童サービス論』には子どもの本について次のように書かれている。

「ここで紹介する子どもの本の対象年齢は、乳幼児から中学生までです。子どもの本の範囲は以下のようになります。

・絵本…赤ちゃん絵本、物語絵本、知識絵本
・伝承文学…昔話、神話、伝説・寓話
・児童文学…幼年文学、児童文学
・わらべうた・詩
・ノンフィクション…知識の本、伝記、実用書、参考図書
・その他の資料…紙芝居、布絵本」

（『児童サービス論』　中川佳樹　二〇一六　近畿大学　六十頁）

ノンフィクションの参考図書とは、事典や図鑑のことを指す。『児童文学の教科書』と日本大百科全書では児童文学の中に絵本や小説が分類されていたが、『児童サービス論』では子どもの本の中に児童文学は分類されている。さらに『児童サービス論』では、児童文学には幼年文学と児童文学が含まれており、次のように分類されている。

「（1）幼年文学
一般に3歳から9歳くらいまで、幼児から小学校中学年くらいの子どものための文学です。絵本を楽しむ年代と重なります。絵本は絵が物語りますが、幼年文学は文章が中心になります。（中略）
（2）児童文学
創作文学のことです。大きく分けるとファンタジー（空想物語）とリアリズムの物語があります。」（『児童サービス論』　七〇頁～七二頁）

また、『児童文学の教科書』では子どもは0歳から十八歳までだったのに対して、『児童サービス論』では子どもは0歳から十五歳までとされている。このように、児童文学が対象と

する子どもは何歳までを指すのかが曖昧である。また成長の著しい子どもは二・三歳差があるだけで読解力などに大きく差がでるため、絵本から小説まで幅広いかたちが児童文学にあてはまっている。児童文学の定義が曖昧というよりも、子どもが何歳までを指すかが曖昧なので、「大人が子どものために書いた文学」である児童文学もどこからどこまで含めるのかが曖昧になっている。

このように定義のはっきりしていない児童文学は、当てはまる作品が非常に多くなってしまうので、ここで扱う作品は次のものに絞る。

一、年齢…小学生を対象とした作品
二、範囲…幼年文学、児童文学
（絵本、伝承文学、わらべうた・詩、ノンフィクション、その他の資料、科学・歴史マンガは対象外）
三、地域…日本の児童文学のみ

範囲に関しては、『児童サービス論』の定義を参考にした。絵本や科学・歴史マンガは二章で紹介する「小学生が選ぶ！“こどもの本”総選挙」と「朝の読書人気本」でランクインしているのだが、ここでは対象外とする。ノンフィクションの伝記などは「青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書に選ばれているのだが、ここでは物語（フィクション）のみを扱う。また図鑑や写真集は文が中心でないため対象外とする。そして、今回は調査の対象を日本の児童文学のみに範囲を絞る。

一章では大人が読ませたい児童文学、二章では子どもが読みたい本児童文学の特徴などを順にみていき、更に三章で大人と子どもの両方に選ばれている児童文学の特徴をみていく。

# 一章　大人が読ませたい児童文学

## 一章―一　青少年読書感想文全国コンクール

大人が子どもに読ませたい児童文学としては、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書を取り上げる。大人は子どもにどのような本を読んでほしいのか。

青少年読書感想文全国コンクール（主催：公益社団法人全国学校図書館協議会・毎日新聞）は、一九五五年から現在（二〇一八年）まで続いている。応募資格は、小学校・中学校・高等学校に在籍する満二十歳までの者である。審査は、はじめは各学校の校内審査で代表を選び、そこから地区審査、都道府県審査、中央（全国）審査というように、段階的に行われている。対象図書は課題図書（主催者の指定した図書）と自由図書（自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問わない）がある。中学校の部・高等学校の部にも課題図書は選定されているが、今回は小学校低学年の部・小学校中学年の部・小学校高学年の部の課題図書のみをみていく。

まず、コンクール開催趣旨は次の通りである。

「◇子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図る。
◇より深く読書し、読書の感動を文章に表現することをとおして、豊かな人間性や考える力を育む。更に、自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。」
（第六十四回青少年読書感想文全国コンクール
http://www.dokusyokansoubun.jp/youkou.html　閲覧日　二〇一八年九月十五日）

一つ目の項目からは、子どもの読書離れを防ぎたいという想いが伝わる。二つ目の項目からは、読書を読むだけで終わりにせずに、感じたことを他者に発信する力も養ってもらおうとしていることが分かる。これは、二章で紹介する「朝の読書」の活動と大きく異なる点である。

課題図書は、課題図書選定基準が二〇〇四年十二月一日に改訂されて以来、小学校低学年の部・小学校中学年の部・小学校高学年の部のそれぞれで四冊ずつ選ばれている。この課題図書の選定基準は次の通りである。

「内容に関する事項
（1）児童生徒の発達段階に適合しており、楽しい読書体験が得られるものであるか。
（2）現代の児童生徒の思考や心情に適合し、多くの児童生徒に興味や関心を持たせることができるものであるか。
（3）児童生徒に深い感動や新たな認識をあたえ、豊かな心の成長が図れるものであるか。
（4）内容や主題に独創性があるか。またその取り扱いは、時流に迎合的であったり、興味

本位のものになっていないか。

（5）正義と真実を愛する精神に支えられ、人権尊重の精神が貫かれているか。

（6）特に、ノンフィクションについては、事実の叙述が科学的に正確で、かつ主題の取り扱い方が新鮮で、創意や工夫がみられるか。」

（公益社団法人全国学校図書館協議会 http://www.j-sla.or.jp/contest/youngr/standard.html　閲覧日 二〇一八年九月十五日）

時代と子どもに合っていて、楽しく、なおかつ感動を味わうことのできる本が、大人が子どもに読んでもらいたい児童文学には選ばれている。

実際に、時代ごとにどのような題材の本が選ばれているのか。

・一九六〇年代…ダム・洪水（一九六四年『黒部ダム物語』、一九六六年『水つき学校』、一九六八年『われらの村がしずむ』）

・一九七〇年代…戦争（一九七一年『八月がくるたびに』、一九七四年『じろはったん』、一九七九年『さよならは半分だけ』）

・一九八〇年代…中国残留日本人（一九八四年『ぼく日本人なの？：中国帰りの友だちはいま』、地震（一九八七年『大地震が学校をおそった』）

・一九九〇年代…地震（一九九〇年『ぼくのじしんにっき』、一九九六年『ゆずちゃん』）

・二〇〇〇年代…いじめ（二〇〇〇年『教室―六年一組がこわれた日』）

・二〇一〇年代…国際化（二〇一七年『空にむかってともだち宣言』）

一九六〇年代は高度経済成長の時代であり、黒部ダムは一九六一年に完成した。戦争を題材にした児童文学は七〇年代に限らず書かれているが、沖縄返還や太平洋戦争旧日本兵の発見・帰国のあった七〇年代は特に多い。一九八一年には中国残留孤児が初来日している。『大地震が学校をおそった』は一九八四年の長野県西部地震、『ゆずちゃん』は一九九五年の阪神淡路大震災を題材にしている。二〇〇六年にはいじめが社会問題化されている。二〇一〇年代は在留外国人が年々増加しており、外国人は子ども達にとっても身近になりつつある。

序章でも引用した『児童文学の教科書』に「⑤作品が書かれた時代やそのときの文化に、かなり影響を受けている。」と書かれているように、児童文学はその時代を反映している。時代を反映するのは児童文学に限らないが、児童文学に関してはその時代に問題となっていることを児童文学で描いて子どもに読ませることで教訓性をもたせる意味合いが強いように思う。このような、時代を反映した児童文学はいつの時代も課題図書に選ばれている。

また、一九六〇年代は外国の児童文学が多く日本の児童文学はあまり選ばれていなかった。しかし一九八〇年代以降は反対に日本の児童文学が多く、外国の児童文学は少なくなってくる。これは、日本で優れた児童文学が多く書かれるようになったことが表れていると考

えられる。

その時代に合った児童文学が選ばれていることは分かった。課題図書に選ばれる他の基準として、楽しい読書経験が得られる本とある。新井康之（高等学校教諭）は楽しい読書経験（読書の喜び）について次のように述べている。

「私見であるが、読書の喜びも3種に大別できる。まず第1は、単純な娯楽、即物的な刺激としての喜びである。これは、読んだ後、ほとんど何も読者に残さない。第2は新しい発見や、自己の変革と向上をもたらす喜びである。これは、後々まで、自分に有益な何かを得たいという手ごたえを残す。そして第3は、自分自身が共感し同調できる、自己の再認識につながる喜びである。これは、第2のものほど具体的ではないが、生きる指針につながるような自己肯定のエネルギーをもたらすことができる。」（「読書の喜びをつづる読書感想文の魅力」新井康之　「学校図書館」二〇〇三年六月号　四十頁）

読書感想文を書く時には、第一（単純な娯楽、即物的な刺激として）の喜びにあたる作品は普通選ばない。課題図書選定基準の（4）の「興味本位のものになっていないか。」という部分にひっかかっているからだろうか。

読書感想文には、一番に第二の喜びが求められており、同時に第三の喜びも求められている。

「（前略）やはり、読んでいて『いい感想文だな』と思う作品は、読書を通して、自分をふり返り、これから自分はどうしていこうとしているのか、自分の心の変化をみつめながら、自分の生き方をかえていこうとしている作品です。」（『読書感想文の書き方　・高学年向き・』吉岡日三雄　二〇〇〇年　ポプラ社　二十八頁）

「学校での体験が本から離れずに書かれていることや、疑問に思ったことを本によって解決し、知識を得た喜びが自己変革につながっている点が評価された。」（「第五十九回青少年読書感想文全国コンクール　中央審査評　小学校低学年の部」「学校図書館」二〇一四年二月号　三十一頁）

「フィクションここに注目して読もう！

共感したところ　登場人物の考え方や行動をどう思ったか、共感したところ、疑問を感じたところに注目してみよう。」（『読書感想文がスラスラ書ける本　小学5・6年』松下義一監修　二〇一五　成美堂出版　十二頁）

大人が求める感想文は、このような自己変革や自己肯定などの前向きに生きる姿勢を示した感想文である。そのため、子ども達は大人の求める感想文を書くために、第二・第三の喜びの本で感想文を書く。しかし、「また、自由図書の対象図書がノンフィクションのものが多く、古典や物語などのフィクションを読んでの感想文が少なかった。これは今年に限ら

ず最近の傾向である。」（「第六〇回青少年読書感想文全国コンクール　中央審査評　小学校高学年の部」　「学校図書館」二〇一五年二月号　四〇頁）とあるように、フィクション（特にファンタジー）で感想文を書ける子どもが少ないことが懸念されている。ノンフィクションや学校などの身近なところが舞台のフィクションの方が、自分の体験や日常の疑問等とつなげて自己変革の表れた感想文も書きやすいので、ファンタジーなどの物語はあまり選ばれないのだろう。子どもがフィクションで読書感想文を書きにくくなったのは、大人たちが読書感想文に自己変革などを求めすぎたからではないか。子どもにはもっと、自由に読書を楽しんでもらい感じたままに読書感想文を書ける環境を与えた方が、読書を楽しむためには良いと思う。

## 一章―二　『オムレツ屋へようこそ！』

『オムレツ屋へようこそ！』（西村友里　二〇一二　国土社）は二〇一三年に青少年読書感想文全国コンクールで小学校高学年の部の課題図書に選ばれた。選書理由は「子どもの揺れる思いと生き方を模索する姿、家族の愛情を描く。」（『課題図書』の選定について」「学校図書館」二〇一三年五月号　四十七頁）とある。

小学六年生の尚子は、フリーライターの母親が海外出張に行くため、おじさんの営むオムレツ屋に居候することになった。そこでの、家族そろっての食事や家族団らんの時間は、出張の多い母親をもつ尚子にとっては初めて味わう理想の家庭だった。双子の敏也と和也とも仲良くなるうちに、「じぶんの宝物」は何か、そして大切なのは環境ではなくてそこで自分がどうするかということに気が付く。

図三　『オムレツ屋へようこそ！』表紙

選書理由にもある通り、尚子の揺れる思いがしっかりと描写されている。例えば、母親が海外出張中の尚子は、担任の先生に家庭訪問の日程を聞かれてこう答える。

『それならいいです。家庭訪問なくても』
『でもそういうわけにはいかないのよ』
『私には家庭がないんだから、仕方ないと思います』（『オムレツ屋へようこそ！』西村友里　二〇一二　国土社　五十七頁～五十八頁）

母親がまだしばらく出張から帰ってこないため、家庭訪問は必要ないと断ったのだ。しか

し、

「尚子だって、みんなと同じように先生に家庭訪問をしてほしかった。母さんとどんなことでもいいから、しゃべってほしかった。」（右に同じ　五十九頁）

と本当は思っていた。家庭訪問を断ったことが祖母たちにばれて叱られた直後に、母親から出張が延びると電話があった。そこで尚子は思いを母親にぶつける。

『『ずーっと行っててもいいよ。私、ここにおいてもらえるんだったら、それでいいから』（中略）

『（前略）中学に行っても転校ばっかりするのはいやだからね』

『だって仕方ないじゃない。母さんはこういう仕事なんだから』

『そういう仕事をえらんだんでしょ、私より。だから、私も自分の生活をえらぶの、母さんより』』（右に同じ　六十二頁）

「私には家庭がないんだから、仕方ないと思います」や「そういう仕事をえらんだんでしょ、私より。だから、私も自分の生活をえらぶの、母さんより」という尚子の言葉からは、母親が自分をほったらかしにして仕事に行ってしまうことへの寂しさが表れている。

しかしその後、母親から「フリーライターを辞める」と言われて、「本当にこれでいいんだろうか」と悩む。

「たしかに、尚子が望んでいたことかもしれない。

もう、転校しなくてすむ。

何でも、好きなことをつづけることができる。

でも、本当にこれでいいんだろうか。

なぜか、心のどこかが揺れて、素直によろこべない。」（右に同じ　一〇一頁）

家族のことで悩んでいるのは尚子だけではない。尚子のいとこの敏也と和也は双子だが、敏也は足が悪く、家族に迷惑をかけたくないと考えていた。一方の和也は、そんな敏也に付きっきりな母親をみて複雑な心境だった。敏也は、今は養護学校に通っているが、先生からの「中学生になったら、地元の中学校に通ったらどうか」という手紙を両親に隠していた。敏也は、地元の中学に通うことで母親に送り迎えをさせたり、和也に色々とサポートをさせたくなかったので、地元の中学には通うつもりはなかったのだ。尚子と敏也は行動が良く似ている。

ある日、敏也と尚子は神社まで散歩に行った。神社の階段をのぼっている時に、体制を崩した敏也を支えてくれたおじさんはこう語った。

『たしかに一番上はいい。でも、一番下もいい。そして五段目の景色もいい。どこにだってすばらしい景色はあるんだ。でも、そこにすわってじっくり見なければ、景色のよさはわからない。それをどう見るかが大切なんだ。』（右に同じ　一一八頁）

この言葉が敏也と尚子の心に深く残った。また、尚子は母親の書いた記事に「わたしの宝物」と尚子の写真が載っているのを見て、『いつだって、私は母さんの宝物だった。そして尚子も、母さんのことが、好きだった。』（右に同じ　一三三頁）と、家族の愛情にも気が付くことができた。そして二人は、

『（前略）どっちの中学校に行ってもいいんだ。大切なのは、ぼくがそこでどうするか』（中略）

『どっちでもいいんだよね。だって、私、母さんにずっといてほしいと思うけど、あちこち飛びまわっている母さんも好きなんだもん。大切なのは、そこで私がどうするか』（右に同じ　一三八頁）

『ずっと、こんな暮らしがつづくのかもしれない。

でも、私はひとりぼっちじゃない。みんながいて母さんがいる。そして大切なことは、私がどう生きていくかってことなんだ。

そう思うと、なんでもできそうな気がして、わくわくしてくる。』（右に同じ　一四二頁）

どんな環境でも良いところはあり、その良いところを見つけようと自分が行動することが大切だという発見をする。ここで読者も第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びや第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びを見つけることができる。

しかし、なぜ『オムレツ屋へようこそ！』は課題図書には選ばれているがこどもの本総選挙などにはランクインしていないのか。その理由として、「状況の分かりにくさ」があるからではないかと考える。

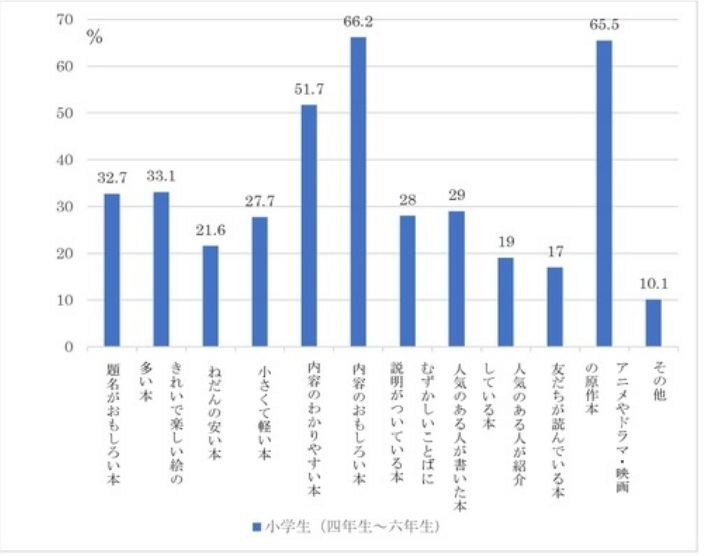
子どもは本を選ぶ基準として何を重視するのか。「第六十二回学校読書調査」では「どんな本を読みたいか」という調査も行われている。小学生（四年生～六年生）、中学生、高校生が対象の調査だが、ここでは小学生の調査結果を抜粋する（図四）。

図四をみると、子どもは「内容のおもしろい本」「アニメやドラマ・映画の原作本」「内容のわかりやすい本」を特に重視している。「内容のおもしろい本」は一番回答率が高いので、子どもは読書に面白さ・楽しさを求めていることが分かる。「アニメやドラマ・映画の原作本」を重視していることからは、メディアへの関心が高いことやテレビの宣伝効果の高さが分かる。「内容のわかりやすい本」に関しては、「しかし、中学生は小学生よりも約15ポイン

ト低い36.3%、高校生は約25ポイント低い26.8%である。これは成長するにつれて、趣味や興味・関心が専門的になって、内容が多少難しくても読もうとする意欲を持ったり、読む力が付いてきたりしているためではないだろうか。」（「第六十二回学校読書調査」『学校図書館』二〇一六年十一月号　三十九頁）と書かれている。小学生はまだ読む力を育んでいる途中であるため、難しく分かりにくい本よりも分かりやすい本を選ぶ傾向にあることが分かる。また、「きれいで楽しい絵が多い本」「題名がおもしろい本」も子どもの選書には大きく影響している。表紙の絵や題名から興味をもった本を選ぶ子どもは多いようだ。

子どもにとって「分かりやすさ」は大切であり、分かりにくい本は好まれないことが分かる。

図四　「どんな本を読みたいか」（複数回答）




ここで、『オムレツ屋へようこそ！』の分かりにくいところを二つ挙げる。一つ目は四章

の「スパイクシューズ作戦」の状況の分かりにくさだ。意図としては、皆で協力することによって（特に敏也と和也が）仲を深めたことを描いたのは分かる。しかし、この作戦が少し分かりにくい。事の始まりは、祖母が店に置いてあったナップサックを和也に渡したことだ。しかし、和也はナップサックを持って帰ったおぼえがなく不思議に思った。

『（前略）おれ、家に持って帰ったおぼえないぜ。何が入ってるんだろ』
和也が不思議そうな顔でナップサックに手を入れた。
『スパイクシューズだ。すげえ！　これまちがいなくおれのじゃないぜ。おれ、こんなの持ってないもん』（中略）
『どうして早川のスパイクシューズがここにあるんだ？』（中略）
『あいつ、今日の二時から陸上の試合のはずだ』（中略）
『これ、いるんじゃないか？　届けてやらなきゃ』（中略）
『伊藤だ』
『伊藤？　伊藤がどうしたんだ？』
『あいつ、たしか、予選会で早川に負けただろ』
『えっ、まさかそれで、早川のスパイクかくしたっていうのかよ』（右に同じ　七十三頁～七十四頁）

早川と伊藤は、和也と同じ学校の陸上部に所属している。後の引用部分ででてくる坂井は、伊藤の言いなりになっている。このことから伊藤は、プライドの高いガキ大将のような性格だと推測できる。なので、伊藤は陸上の予選会で負けた腹いせに早川のスパイクを隠した。

『〈あいつら、きっとそのつもりなんだ。おれがスパイク持って飛びだすのまってるんだ。それで、〈おまえ、どうして早川のスパイク持ってるんだ〉なんていうつもりなんだ。だから店でバナナジュースなんか飲んでるんだ』（右に同じ　七十五頁）

こうして伊藤たちの企みを理解した和也だったが、読者にとっては理解が難しい場面である。「おまえ、どうして早川のスパイク持ってるんだ」と聞かれたとしても、「店に忘れてあったから届ける」とでも言えばいいのではないか。しかし、「スパイクシューズ作戦」の後半にこのような会話がある。

『あ、ああ。あのな、お前、ナップサックを学校にわすれていただろ』（中略）
『それでな、坂井がわざわざ届けにきたんだとよ。な、坂井』（右に同じ　八十五頁）

この伊藤の発言から、おそらくこのナップサックは和也のものであり、その中に早川のスパイクシューズを入れて店（オムレツ屋）へ届けたのだと思われる。なので、和也のナップ

サックに入った早川のスパイクシューズを持つ和也に対して伊藤は「おまえ、どうして早川のスパイク持ってるんだ」と聞いて、早川のスパイクシューズを盗んだ罪をなすりつけるつもりだったのだろう。ナップサックが和也のものだということが書かれていれば、スパイクシューズ作戦は理解しやすいものになっていたと思う。

二つ目は、唐突にでてきた登場人物たちの性格や行動の分かりにくさだ。伊藤や早川たちはこの四章の「スパイクシューズ作戦」でしかでてこない。四章以前の章で名前すらでてこない。このような唐突な登場人物は、読者（子ども）にとって親しみがない。先ほど、伊藤について「プライドの高いガキ大将のような性格だと推測できる」と述べた。このように、大人ならば書かれていなくても周囲の状況などから、急にでてきた登場人物であっても大体の性格はつかめる。しかし子どもにとっては、このような書かれていない部分まで読み取ることは難しく、彼らがどのような性格なのかつかみにくい。このような登場人物たちとひと悶着があっても、子ども達は置いてきぼりになってしまう。

このように、『オムレツ屋へようこそ！』は、第二の喜びは分かりやすく書かれているが、一方で状況が少々分かりにくく、唐突な登場人物の受け入れにくさがあるので、あまり子どもたちの心をつかむことができなかったと考える。

## 一章―三　『ぼくの、ひかり色の絵の具』

『ぼくの、ひかり色の絵の具』（西村すぐり　二〇一四　ポプラ社）は二〇一五年に青少年読書感想文全国コンクールで小学校高学年の部の課題図書に選ばれた。選書理由は「少年の繊細な心と、思いを伝える難しさを克服し成長する姿が、ほのかな恋を交えて描かれている。」（『課題図書』の選定について」　『学校図書館』　二〇〇七年六月号　四十五頁）とある。

ユクは、絵を描くことは好きだが、だんまり屋で自分の思いを上手く伝えることが苦手だ。ある日の写生の時間に、赤や黄色に薄い青を重ねて描こうとしていた山の絵をみた担任に「まだ紅葉のきせつじゃないだろう。うそはいかん。」（『ぼくの、ひかり色の絵の具』西村すぐり　二〇一四　ポプラ社　二十八頁）と緑の絵の具で塗るように言われた時も、何も言い返すことができずに従ってしまった。この絵を気に入らなかったユクは絵を破り捨ててしまう。しかし、花が好きな少女ハネズやガウディ先生達と交流していくうちに、ユクにとっては絵を描くことが思いを伝える方法の一つであることに気が付く。

図五　『ぼくの、ひかり色の絵の具』表紙

選書理由にある通り、ユクが思いを伝える難しさを克服して成長する姿が描かれている。物語の初めの頃のユクは

「ユクは、『ありがとう』をいうタイミングをはずしてしまった。礼をいわなくちゃと気になりながらも、うまく切りだせなくて、その思いをハンカチのようにたたんで胸のなかにおしこんだ。」（右に同じ　十五頁）

『おかえり』

と、目じりに深いしわをつくってわらいかけてくれた。ユクは、あいさつのことばがのどまででかかったが、『ただいま』といおうか、『いらっしゃい』といおうかまよって、けっきょく目線をおとしただけだった。」（右に同じ　三十五頁）

このように、うまく言葉に出せない描写が多かった。しかし、ハネズたちとの交流を通して、言葉で自分の思いを伝えられるように成長する。例えば、物語の前半と後半に写生の授業の場面があり、この時のユクの行動に違いがある。

「ユクは、シートをひろげていった。

『これ、かしてあげる』（中略）

『いっしょにすわろう』

ハネズは、シートのはしにすわっていった。シートは小さくて、ふたりがならんで絵を描くと、ひじがあたりそうだった。ユクは『ぼくはいいよ』と、いえなくて、おしりを半分だけシートにのせてすわった。」（右に同じ　十一頁～十二頁）

「ユクは、にっこりわらって、ハネズのためにシートをだした。そして、いった。

『ぼくはいいから、ハネズちゃんがつかって』

今度はちゃんといえた、とユクは思った。」（右に同じ　一八八頁）

このように、ユクは、最初は自分の思いをうまく伝えられずにいたが、物語の後半では成長してちゃんと思いを伝えられるようになった。

しかし、なぜ『ぼくの、ひかり色の絵の具』は課題図書には選ばれているがこどもの本総選挙などにはランクインしていないのか。その理由として、「第二の喜びの見つけにくさ（分かりにくさ）」があるのではないかと考える。一章―二で紹介した『オムレツ屋へようこそ！』では、「そして大切なことは、私がどう生きていくかってことなんだ。」と尚子が気付いたことを最後にまとめてくれている。三章で紹介する『二日月』『ぼくたちのリアル』も同じように、主人公が気付いたことをまとめてくれているので読者も第二の喜びに気付きやすい。一方で『ぼくの、ひかり色の絵の具』には、主人公（ユク）が気付いたことをまとめるような発言がない。そのため、『オムレツ屋へようこそ！』等のほかの作品と比べると少し分かりにくいが、第二の喜びはきちんと書かれている。

「『（前略）絵は、きみが感じたことをひとにつたえるためのことばだ。ほんとうにつたえたいことだけ描けばいい。』（右に同じ　一六〇頁）

『ユクは、いっぱい考えて、多くを語ろうとするから口べたなんだって、ガウディ先生

が。そういうひとは絵のほうがうまく心をつたえられるって。わたしも、ユクにとって、絵はことばだと思う。』（右に同じ　二二二頁）

こうした周囲の人の言葉により、ユクは自分にとっての絵を描くことの意味を理解していく。ユクにとって絵を描くことは思いを伝えることだ。ユクがわくわくしながら描いた絵を見て、ハネズは『ユクの絵は楽しい。この木はこんなにきれいだよって、いってるみたい』（右に同じ　一九三頁）とユクの思いを感じとった。また、担任の指示に意見することができなかったせいで、納得のいかない絵を書いてしまったユクは、その絵を破り捨ててしまう。ユクの絵が破り捨てられているのを見た担任や母親は、ユクがいじめられているのではと心配する。ユクは「ぼくが自分でやぶった」と言うのだが、それだけでは納得できない担任や母親に対して破った理由を上手く説明することができずに黙り込んでしまう。しかし、後日ユクが破り捨てた絵を見た母親は

『いま、わかった。このみどり色、ユクはぬりたくなかったのね』（中略）
『ユクの絵の具じゃないよね』
『その子はわるくないよ。かしてやれっていいだしたのは先生なんだ。早くうけとらないと、その子がこまると思ったから』（中略）
『絵がだめになってもいいから、その子をこまらせたくなかったのね。だったら、いいじゃない。長い人生、やぶってしまいたい絵の一まいくらいあるよ』（右に同じ　二〇二頁）

と、ユクの気持ちを理解した。担任も、ユクが書き直した山の絵を見て

『いや、きょう、きみの絵を見て、よくわかったよ。今週の図画工作で提出した絵も、もういちど見なおした。いい絵だった。いやな思いをさせて、すまなかった』（右に同じ　二二五頁）

と、ユクの思いを理解し、自分のしたことを謝罪した。ユクは絵を破った理由を言葉ではうまく伝えることができなかったが、絵を見てもらうことで思いを伝えることができた。

読者も、このような登場人物たちの言葉やユクの行動から「心をこめれば言葉以外でも思いを伝えることができる」という第二の喜びを見つけることはできる。第六十一回青少年読書感想文全国コンクールで、内閣総理大臣賞小学校高学年の部で最優秀作品に選ばれた黒田真希さんの読書感想文には、次のように書かれている。

「ユクはハネズに『また、だんまり』と言われるのがいやで、自分の思いを口に出す努力を始めました。一歩をふみ出したのです。それから、アララギ・ウツギさん。ウツギさんは、『絵は、きみが感じたことをひとにつたえるための言葉だ。』

と言いました。自分の伝えたい思いをしっかり持つこと、そして本当に伝えたいことを表現することが絵を描くことの意味だと教えているのだと思います。私は、『言葉』も同じだと思います。自分の思いをしっかり持って、本当に伝えたいことを言えば、相手に伝わるのだと思います。」（第六十一回青少年読書感想文全国コンクール　「さようなら、だんまり屋の私」愛媛県南宇和郡愛南町立家串小学校　６年　黒田真希
http://www.dokusyokansoubun.jp/text61st/skou.html　閲覧日二〇一八年十一月二十六日）

黒田真希さんのように、読書力が高く、しっかり読むことができれば、ユクの成長や登場人物の行動・発言などから「心をこめれば相手にきちんと思いを伝えることができる」という第二の喜びは得られる。しかし、他の作品のように、ユクによる「心をこめれば言葉以外でも思いを伝えることができるんだ」というようなまとめた発言はないので、読書があまり得意ではない子には第二の喜びに気が付きにくい。この点が他の作品に比べると少々分かりにくく子どもにあまり読まれていない。

また、黒田さんは

「ユクはだんまり屋で友達がいません。私とよく似ています。でも、ユクは自分を変えることができました。（中略）
私もユクに負けてはいられません。一歩をふみ出します。ユクが自分の感動を絵に表現する喜びを見つけたように、私はファンタジーの世界に逃げるのではなく、ファンタジーのおもしろさを伝える翻訳家になろうと思います。（中略）私は、ユクと出会ったことで、自分を好きになれそうです」（右に同じ）

とも書いており、ユクに共感し第三の喜びも得ている。このように、一章――で述べた大人が求める読書感想文の特徴（自己変革や自己肯定などの前向きに生きる姿勢が示されている）に当てはまっている感想文が実際に受賞している。

大人が読ませたい児童文学として『オムレツ屋へようこそ！』と『ぼくの、ひかり色の絵の具』をみてきた。これらの児童文学には第二の喜びが描かれており、大人が望む読書感想文が書きやすい特徴がある。しかし、子どもにあまり選ばれない理由として内容や書き方に「分かりにくさ」があることが分かった。

# 二章　子どもが読みたい児童文学

## 二章―一　「朝の読書」と「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」

子どもが好んで読んでいる児童文学は、「朝の読書の人気本調査結果発表」と「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」を主に参考にした。

朝の読書は、一九八八年に提唱されて以来、全国の学校に広がっている。小学校・中学校・高等学校で、ホームルームや授業の始まる前の十分間に、自分の読みたい本を読むという活動である。『朝の読書』全国都道府県別実施校　平成三十年九月三日現在　朝の読書推進協議会調べ」(http://www.tohan.jp/topics/upload_pdf/asadoku_school.pdf　閲覧日　二〇一八年九月二十八日)によると、小学校一万六四七七校・中学校八五二三校・高等学校二二一八校の合計二万七二十八校で行われている。この朝の読書には、他にはない特徴が四つある。

「・全校一斉で行う。
・10分間でも毎朝続ける。
・読む本は何でもいい。(但し、雑誌やマンガはダメ)
・本を読むこと以外は何も求めない」
(TOHAN「朝の読書」　http://tohan.jp/csr/asadoku/　閲覧日　二〇一八年九月二十八日)

朝の読書は、読書感想文などを求めない。読む本は、子どもが自由に選ぶことができる。読む本は「何でもいい」とある通り、「平成29年度『朝の読書』の人気本調査結果発表」では『ミッケ！』(視覚探索絵本)や『科学漫画サバイバルシリーズ』がランクインしている。雑誌やマンガがダメな理由は、「漫画と雑誌類は家でも読んでいるので、対象外としています。」(e-hon　全国書店ネットワーク　「本を読む子どもが増えている～広がる『朝の読書』運動～」　https://www1.e-hon.ne.jp/content/asadoku_m_0530.html　閲覧日　二〇一八年九月二十八日)と述べられている。しかしマンガでも、科学や歴史についてのマンガは認められているようだ。絵本も多くランクインしている。

「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」は、二〇一七年十月から二〇一八年二月にかけてポプラ社が行った、小学生が選ぶ最強の本決定戦である。小学生にのみ投票資格があり、大人は投票することができない。

ベスト三に選ばれたのは、一位『おもしろい！進化のふしぎ　ざんねんないきもの事典』、二位『あるかしら書店』、三位『りんごかもしれない』である。この三冊は、ほぼ全ての学年のベスト一〇に入っている(『あるかしら書店』だけが一年生のベスト一〇には入っていない)。しかし、こどもの本総選挙のランキングには、絵本や事典、外国の本などここでは扱わない子どもの本が多く含まれている。なので、子どもの本総選挙のベスト一〇〇を参考にして、ここで扱う範囲に絞ったベスト二〇(表一)を作成した。

表一　こどもの本総選挙　ベスト二〇

| 順位 | 作品名 | 作者 | 発行年 | 出版社 | ベスト一〇〇の順位 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一位 | おしりたんてい かいとうVSたんてい | トロル | 二〇一七 | ポプラ社 | 五位 |
| 二位 | おしりたんてい いせきからのSOS | トロル | 二〇一七 | ポプラ社 | 六位 |
| 三位 | ぼくらの七日間戦争 | 宗田理 | 二〇〇九 | 角川書店 角川グループパブリッシング | 八位 |
| 四位 | 銭天堂：ふしぎ駄菓子屋 | 廣嶋玲子 | 二〇一三 | 偕成社 | 九位 |
| 五位 | おしりたんてい やみよにきえるきょじん | トロル | 二〇一六 | ポプラ社 | 十一位 |
| 六位 | おしりたんてい ふめつのせっとうだん | トロル | 二〇一六 | ポプラ社 | 十二位 |
| 七位 | おしりたんてい むらさきふじんのあんごうじけん | トロル | 二〇一五 | ポプラ社 | 十四位 |
| 八位 | 君の名は。 | 新海誠 | 二〇一六 | KADOKAWA | 十八位 |
| 九位 | ジュニア空想科学読本 | 柳田理科雄 | 二〇一三 | メディアファクトリー 角川グループホールディングス | 十九位 |
| 十位 | 5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱 | 桃戸ハル | 二〇一六 | 学研プラス | 二〇位 |
| 十一位 | 5分後に意外な結末 1（赤い悪夢） | 学研教育出版 | 二〇一三 | 学研プラス | 二十四位 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 十二位 | かいけつゾロリのかいていたんけん | 原ゆたか | 二〇一七 | ポプラ社 | 二十六位 |
| 十三位 | 5秒後に意外な結末 : ミノタウロスの青い迷宮 | 桃戸ハル | 二〇一七 | 学研プラス | 二十八位 |
| 十四位 | 事件だよ!全員集合 : ミルキー杉山のあなたも名探偵 | 杉山亮 | 二〇一一 | 偕成社 | 二十九位 |
| 十五位 | 5分後に意外な結末 4 (黒いユーモア) | 学研教育出版 | 二〇一四 | 学研プラス | 三〇位 |
| 十六位 | 二日月 | いとうみく | 二〇一五 | そうえん社 | 三十五位 |
| 十七位 | 5分後に意外な結末 2 (青いミステリー) | 学研教育出版 | 二〇一三 | 学研プラス | 三十六位 |
| 十八位 | かいけつゾロリの王子さまになるほうほう | 原ゆたか | 二〇一六 | ポプラ社 | 三十九位 |
| 十八位 | かいけつゾロリのおいしい金メダル | 原ゆたか | 二〇一六 | ポプラ社 | 三十九位 |
| 二〇位 | 小説君の名は。 | 新海誠 | 二〇一六 | KADOKAWA | 四十二位 |

このように、『おしりたんてい』シリーズ（顔がおしりのような形をしているおしりたんていが数々の事件を解決していく謎解き物語）が多くランクインしている。しかし、『おしりたんてい』が人気なのは一年生から三年生で、四年生以降には『銭天堂 : ふしぎ駄菓子屋』が人気のようだ。五、六年生に人気なのは『5分後に意外な結末』シリーズ。五分程で読めるショートショートを集めているので、十分間の朝の読書にも最適だ。『かいけつゾロリ』シリーズは、シリーズベスト一〇で一位に選ばれており、更に人気の作者ランキングでは原ゆたかが一位に選ばれている。子ども達に根強い人気があるようだ。そして、二〇一六年に映画が大ヒットした『君の名は。』の小説が二つランクインしている。「第四十八回学校読書調査報告」によると、

「人気作品のなかった二〇〇〇年と二〇〇一年は冊数が下がり、人気作品のあった今年は冊数が上がっている。人気作品がある年には平均冊数が上がり、ヒット作がない年には平均冊数が下がるという現象が最近はっきりしてきた。」（「第四十八回学校読書調査報告」

「学校図書館」二〇〇二年十一月号　十三頁）

というように、平均読書冊数はヒット作があれば上がるのが最近の傾向と指摘されている。

また、このベスト二〇にランクインしている作品のほとんどが朝の読書人気本にもランクインしている。なので、子どもからの人気はたしかなもののようだ。

ここで、こどもの本総選挙と朝の読書の目的を確認する。子どもの本総選挙の目的は、

「『小学生が選ぶ！“こどもの本”　総選挙』は、こどもたちに読書を好きになってほしいという想いからスタートしました。読書が好き、自分から本を読みたいという気持ちは、この本と出会えてよかったという経験から生まれると私たちは考えます。そこで、『小学生が選ぶ！“こどもの本”　総選挙』は、今のこどもたちに1番支持される本を選び、その結果をこどもたちと分かちあうことを目指します。」（ポプラ社　「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」http://www.poplar.co.jp/company/kodomonohon/　閲覧日　二〇一八年九月二十八日）

次に、朝の読書推進協議会理事長の大塚笑子によると、

「『朝の読書』のねらいとすることは読書本来の楽しみや喜びを感じ、自由や解放感を味わい、精神の散策や心の癒し、探究心や感性等々を、生徒と教師が一緒に読書をすることで、かけがえのない人生この時を、共に生き、共に学び、共に育み、共に歩んでいきましょうということなのです。」（TOHAN　「朝の読書」　http://tohan.jp/csr/asadoku/　閲覧日　二〇一八年九月二十八日）

こどもの本総選挙も朝の読書も、さらには青少年読書感想文コンクールも「子どもに読書の喜びを感じ、読書を好きになってほしい」という同じ目的でおこなわれている。この、読書の喜びについては一章―一でも引用した。こどもの本総選挙ベスト二〇（表一）にランクインしている本のほとんどは、第一（単純な娯楽、即物的な刺激）の喜びに一般的に当てはめられている。しかし、単純な娯楽だからといって全く第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びや第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びがないというわけではないと思う。このことについて、二章―二と三で詳しくみていく。

## 二章―二　『かいけつゾロリ』シリーズ

『かいけつゾロリ』シリーズ（原ゆたか　ポプラ社）は、一九八七年にシリーズ第一作『かいけつゾロリのドラゴンたいじ』が発売されて以来、現在（二〇一八年十二月）も続いている子どもに大人気のシリーズである。いたずら王者を目指すゾロリが子分のイシシとノシシと共に旅をするストーリーだ。旅の途中で何かしらトラブルに巻き込まれ、それを解決してまた旅にでるのがお決まりだ。ゾロリがお金持ちになる等といった大きな変化もなく、難しいことも起こらないので非常に分かりやすい。『ゾロリ』シリーズはこどもの本総選挙のシリーズベスト一〇で一位に選ばれた。また、朝の読書の人気本調査結果発表では平成十四年度から平成二十九年度の調査で毎年一位に選ばれている。なぜこんなにも子どもに人気なのか。

『ゾロリ』シリーズには子どもを楽しませる工夫がたくさん施されている。作者が子どもを楽しませることを第一に書いているからだ。

「ゾロリをかくときは“自分が小学生だったときは何が楽しかったか、何がおもしろかったか”ということをふり返って、“今、自分が小学生だったら、何が読みたいか”ということを考えてかいています。」（巻頭特集インタビュー　（児童書作家）原ゆたかさん https://www.kobun.co.jp/Portals/0/resource/dataroom/magazine/dl/tnavi_plus01_01.pdf 閲覧日 二〇一八年十月十四日）

『ゾロリ』では本の楽しさを伝えようと、本にしかできないことも工夫しています。ページを折ったりすかしたりめくったりと、紙ならではの遊びが満載です。カバーを外すと別の絵が現れたり、よく見ないと見つけられない隠し絵も、あちこちに仕込んであります。本を何冊かつなげないと、わからないものもあるんですよ。でも熱心な読者には気づかれてしまうので、さらに見つからない工夫をして読者との知恵くらべになっています。」（おはなしめぐり」毎日新聞 二〇一一年九月二十八日　十三頁）

このように、作者の原ゆたかは語っている。『ゾロリ』シリーズには親父ギャグやおならなどの子どもの好きなものがたくさん詰め込まれている。例えば、『かいけつゾロリのじごくりょこう』では「おやじギャグじごく」が登場した。『かいけつゾロリちきゅうさいごの日』は、おならで隕石を吹き飛ばそうとする話であるし、『かいけつゾロリのなぞのうちゅうじん』ではおならで宇宙船を動かして地球に帰ってきた。ピンチの時にはおならで切り抜けることが多い。更に迷路などの遊びの要素も含まれている。迷路やなぞなぞは、読書が苦手な子どもでも飽きずにページをめくり続けることができる仕掛けとなっている。例えば『かいけつゾロリの王子さまになるほうほう』ではゾロリが次々となぞなぞやなぞかけを解き、王子を選ぶ審査を通過していく。読者もゾロリと一緒になぞの答えを考えて楽しむことができる。また、ゾロリのママの幽霊やゾロリのパパの飛行機がひっそりと隠れているの

で、そのような隠し絵を探すのも楽しい（ゾロリのパパの飛行機は図六にも隠れている）。

原ゆたかは、自分が小学生だったら何が楽しいかを考えてかいているので、子どもとしての自分を楽しませるために書いているともいえる。児童文学の巨匠である石井桃子について、『ひみつの王国　評伝石井桃子』（尾崎真理子）には次のように書かれている。

「石井は子どもだからと言って、特別に関心は持たなかった。（中略）石井自身もとうに気がついていただろう。私は、私という王国の中に生きる幼い『いしいももこ』に物語をせがまれるから、こんなに長い間、子どもの本を書いてきたの。」（『ひみつの王国　評伝石井桃子』尾崎真理子　二〇一八　新潮社　六四六頁）

このように、石井桃子も「子どもの自分」にあてて児童文学を書いていた。一方、『お引越し』で第一回椋鳩十児童文学賞、『なりたて中学生　初級編・中級編・上級編』で第五十七回日本児童文学者協会賞受賞をしているひこ・田中は次のように述べている。

「私は、デビュー作『お引越し』が、（略）日本の児童文学史の中に位置づけると……、（略）両親の離婚に遭遇する子どもの物語って、あまりかかれない時代がありました。ずっと日本の児童文学を読んでいて、そこが残念だったんです。だから、そういう作品が日本の児童文学の書棚に一冊でもあればいいかなあと思って書きました。」（『角野栄子さんと子どもの本の話をしよう』角野栄子、ひこ・田中他　二〇一五　講談社　一七九頁）

「（前略）もう一冊は、『なりたて中学生　初級編』というタイトルで、中学生になりかけの小学校六年生の話で、要するにコンセプトでいうと、あまりだれも書いてないんです（笑）。」（右に同じ　一八五頁）

ひこ・田中は児童文学を分析し、児童文学であまり書かれてこなかったことなどを書いている。原ゆたかや石井桃子と違い、「子どもの自分」に向けて児童文学を書いてはいない。子どもが好む児童文学を書く作者と大人が好む児童文学を書く作者で、このように違いがある。「子どもの自分」にあてて児童文学を書くということは、子どもが楽しむ本を書くために必要なものかもしれない。

また、キャラクター化した作者も作品に欠かせない存在となっている。『かいけつゾロリ』シリーズには、作中に作者の原ゆたかが時折登場する（図六）。しかし、原ゆたかというキャラクターが現れるのは作中だけではない。

「原ゆたかはロッカーで変身をしていた。妻に何度も『〈原ゆたか〉になっているよね』と確認をし、丸メガネと柄のシャツを着て、胸には『かいけつゾロリ』のバッヂを付ける。（中略）カメラが回らない風呂場、寝室でもイラスト入りで原ゆたかを演じ切る。さらには毎日

一時間使うという酸素カプセルに入ってる間も『お茶目な絵本作家』を崩さない。生活のすべてが新作のアイデアになっているのだ。」（Business Journal「累計3200万部の『かいけつゾロリ』を創る作者に感動！」　松江哲明　https://biz-journal.jp/2012/10/post_914.html　閲覧日二〇一八年十月十四日）

このように、彼は普段から「原ゆたか」というキャラクターになっているのだ。この「原ゆたか」というキャラクターは、六十歳を超えた大人の原ゆたかではなく、子どもの心をもった「原ゆたか」である。キャラクターとしての「原ゆたか」は作中にも登場するが、日常生活にも存在し続けており、日常生活で「面白い」と感じたことが本の素材として活きている。これは子どもの目線で「面白い」と感じたことなので、多くの小学生の心にも刺さりやすい。

図六　『かいけつゾロリのてんごくとじごく』原ゆたか　二〇〇二　ポプラ社　二十七頁

しかし、『ゾロリ』シリーズが子ども達の心をしっかりと捉えているあまりに、問題視されていることもある。それは、「子どもが『かいけつゾロリ』以外の本を読まない」と心配する親が多いということだ。このような問題を「アフターゾロリ問題」として松島有香は、「自分の子どもはゾロリの何が好きなのか」を把握し、その好きな要素（だじゃれが好き、冒険が好きなど）の含まれている本を子どもにすすめてあげるという解決法を紹介してい

る。この時、子どもに読書をしてほしいあまりに、いきなり挿絵のまったくない本や文字数の多い本を与えるのは逆効果だと思われる。その子どもに合った本をしっかりと選んであげることが大切である。

また、漫画のような絵（図六のように、漫画のようにキャラクターがふきだしで話す場面もある）や、おならなどの描写が多く下品だと批判する大人も多いようだ。

「・本は3冊借りることができるが、かいけつゾロリのみ例外で1冊までしか借りられない。子どもたちには『ゾロリはとても人気だから、1人が1冊までなのよ』と説明しているが本当は『字が大きくて漫画じみて幼稚な内容のゾロリはあまり借りて欲しくないから』。ゾロリを一斉に廃棄処分にして0冊にした学校も

・強制ではないが、高学年はあまりゾロリは借りないようにすること。6年生にもなってゾロリばかり読んでいるなんて恥ずかしいから。低学年向けの絵本や○○のひみつシリーズもなるべく借りてほしくない」

（はてな匿名ダイアリー　「小学校司書」https://anond.hatelabo.jp/20180119200212 閲覧日二〇一八年十一月十日）

このように、子どもが借りる本に制約をつける学校図書館もあるようだ。強制ではないと書かれているが、「六年生にもなって『ゾロリ』ばかり読んでいるなんて」と先生から思われていることに気が付けば、子どもは傷つき嫌な気持ちになって『ゾロリ』すら読まなくなってしまうのではないか。このような制約はつけるべきではないと思う。

また、「字が大きくて漫画じみて幼稚な内容のゾロリはあまり借りて欲しくないから」という意見もあるようだが、文字の大きさはページによって小さくなることもあり、細かいところまで書き込んであるため、じっくり読んでみると結構文字数は多い。幼稚な内容という批判をする大人がいることは、原ゆたかも重々承知のようで、それを逆手に取る場面もある。例えば、図六のような「これって、しらないまにゾロリたちはう○ちになったってこと？」という原ゆたかのセリフを、点線で紙を折ることで隠せるようになっている。実際に点線で折ると、吹き出しの部分が隠れて、原ゆたかのキャラクターしか見えないようになる。紙ならではの折るという遊びを加え、楽しめるようになっている。

『ゾロリ』シリーズは第一（単純な娯楽、即物的な刺激）の喜びに当てはまる。子ども達が楽しめる要素を詰め込んだ『ゾロリ』は最高の娯楽として子ども達に受け入れられている。では、『ゾロリ』には『オムレツ屋へようこそ！』や『ぼくの、ひかり色の絵の具』のような第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びや第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びはないのだろうか。

『オムレツ屋へようこそ！』や『ぼくの、ひかり色の絵の具』などの大人が読ませたい児童文学では、主人公の新しい発見や自己変革が描かれており、多くの場合は物語の締めくく

りで主人公が新しい発見や自己変革を語る。そのため、読者もそれに共感し、新しい発見をしやすい。一方、『ゾロリ』の物語の締めくくりは、旅の途中で手に入れたお宝やお金などを失い、旅の振出しの状態に戻り、再び旅に出るのがお決まりだ。ゾロリは『よのなかには、まだみつかっていないまいぞう金や、たからをつんだなんぱせんが、いっぱいあるんだ。また、みつけてやるぜ。』(『かいけつゾロリのきょうふの宝さがし』一九九九　九十五頁)、「『これで、また、おれさまのゾロリじょうをたて、かわいいおよめさんをもらうゆめが、ふっかつしたんだからな。よーし。いままでよりもがんばるぜ！』(『かいけつゾロリちきゅうさいごの日』一九九九　九十五頁)と、いつも前向きに再び旅に出る。このように、新しい発見や自己変革は述べられることなくおわる。

しかし、『かいけつゾロリのきょうふの宝さがし』では『こんかいは、ゾロリせんせいに、“みんなできょうりょくするたいせつさ”をおしえていただき、うちのせいとも、いいべんきょうになりました。ありがとうございます。』(『かいけつゾロリのきょうふの宝さがし』九十四頁)と、ようかい学校の先生が言うように、ゾロリはようかい学校の生徒たちの特技をいかして、崩れかけのいせきから脱出する。仲間と協力すれば危機も乗り越えることができることが描かれている。『かいけつゾロリちきゅうさいごの日』では『フレディはとくぎをいかしてげんきになったよ。みんなもなにかとくいなことをみつけてみよう。』(『かいけつゾロリちきゅうさいごの日』裏表紙見返し)と原ゆたかが言っているように、おならのせいで全て上手くいかないと卑屈になっていた河童のフレディはおならをいかして人間をこわがらせることを考えるようになる。短所と思っていたことも見方を変えれば長所になることが描かれている。

このように、『ゾロリ』にも第二、第三の喜びは描かれているが第一（娯楽）の喜びとしての印象が強いため、見えにくくなっている。

## 二章―三　『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』シリーズ

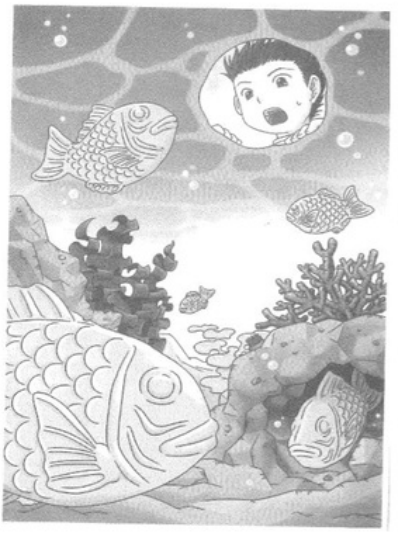
『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』シリーズ（廣嶋玲子　偕成社）は、現在（二〇一八年十二月）十巻まで刊行されている子どもに人気のシリーズだ。「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙」のベスト一〇〇にも多くランクインしている（九位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』、四十六位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂七』、五十二位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂二』、六十四位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂三』、七〇位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂五』、八十六位『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂四』）。

紅子が営む銭天堂という駄菓子屋では、不思議な力を持った駄菓子を販売している。銭天堂にたどり着くことができるのはその日幸運な人のみ。しかし、その駄菓子は使い方を間違えるとたちまち不幸になってしまう。一話完結型の話が一巻につき六～七話収録されている。客が視点人物なので、毎話視点となる人物は変わる。

二章―二で紹介した『ゾロリ』シリーズとは、ダジャレが取り入れられているところが共通している。銭天堂で売られている駄菓子の名前にダジャレがよく使われている。例えば、最後にわら麩（ここぞという勝負で勝てるようになる）、イケ面（かぶれば、たちまちイケメンになるパック型のマスク）、ミイラムネ（飲むとやせられ、何千年も生きられる）、ほしいイモ（ほしいものをほしいと言えるようになる）などがある。子どもの本総選挙のベスト一〇に書いてある子どもの感想には「一つ一つの話が短くて読みやすいです。駄菓子の名前がおもしろく、願いが叶ったり、使い方を間違えると、悪いことが起こったり。ハラハラドキドキして読んでいます。」（小4男の子）（「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙」ベスト一〇　https://www.poplar.co.jp/company/kodomonohon/award/best10.html　閲覧日二〇一八年十一月二十九日）とあるので、やはり小学生にとってダジャレは面白く興味深いものだ。また、二章―四で詳しく触れるが、一つの話が短く気軽に読むことができるものを最近の子どもは好む。

また、『ゾロリ』の漫画のようなイラストを批判する声があったが、『銭天堂』も漫画やアニメのようなイラストである（図七）。一章―二の図四（「どんな本を読みたいか」）で、「きれいで楽しい絵の多い本」は四番目に多く選ばれている。子どもが本を選ぶときに、内容などの次に重視するのがイラストである。数々の名作児童文学も最近では漫画家やアニメーターのイラストを表紙にして出版されている。これはやはり、今の子ども達のニーズにこたえているからだろう。一方、大人が読ませたい児童文学の『オムレツ屋へようこそ！』（図三）、『ぼくの、ひかり色の絵の具』（図五）は、今時のアニメのようなイラストではない。子ども達にとってイラストは本を選ぶ際の重要なポイントの一つである。

『銭天堂』に登場する駄菓子はユニークな物ばかりで、子どもは読んでいて「自分だったらどの駄菓子を買うかな」と夢を膨らませる。銭天堂を訪れる客は悩みに合った駄菓子を買うのだが、多くが説明書きをきちんと読まずに食べてしまい、注意事項を破ったせいでひどい目にあう。そこで救済措置をとって助かる客もいれば、一生不幸になってしまう客もいる。



図七　『銭天堂』　「釣り鯛焼き」（『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』　八十一頁）

例えば、一巻に登場する「釣り鯛焼き」はバケツに水を入れて専用の釣竿をたらすと色々な味や大きさの鯛焼きが釣れるものだ。小学生の慶司は釣り鯛焼きを毎日楽しんでいたが、ある日姉の冬子に釣り鯛焼き専用釣竿を壊されてしまう。そこで普通の釣竿を使って鯛焼きを釣ろうとしたところ、鯛焼きではない大きな魚がかかってしまい、バケツの中の海に引きずりこまれそうになる。

『たすけて！』（中略）

冬子は、まず弟の体をひきとめようとし、それができないとわかると、足で思いっきりバケツをけとばした。

じゃばんと、ものすごい音をたてて、バケツがひっくりかえった。水が床にとびちるのと同時に、慶司をひっぱる力が消えた。（中略）

水がこぼれたバケツは、もはやただのバケツにもどってしまっている。ふくためにひっくりかえすと、うら側の底の部分になにか書いてあるのが見えた。

〈注意。このバケツには、指定の釣りざお以外のものをつかわないでください。べつの釣りざおをつかうと、鯛焼きの海ではないところに通じてしまう可能性があります〉（『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』廣嶋玲子　二〇一三　偕成社　九〇頁～九十二頁）

この後、冬子が釣り鯛焼き専用釣竿を修理し、二人で仲良く釣り鯛焼きを楽しむ。

このようなふしぎな駄菓子の繰り広げるストーリーを楽しく読める『銭天堂』は、第一（単純な娯楽、即物的な刺激）の喜びにあてはまる。しかしそれだけでなく、『ブロリ』と同じように第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びや第三（自分自身が共感し同調でき

る、自己の再認識）の喜びも描かれている。ふしぎ駄菓子を手に入れて、幸福になる人の特徴は欲深くなくて他人を思いやる気持ちのあることだ。反対に不幸になる人は欲深く、自分のことしか考えていない。

例えば幸福になったのは、「獏ばくもなか」を買った信孝だ。信孝は四歳の娘（真理恵）がいるサラリーマンで、『銭天堂』はこのように子どもだけでなく大人の視点からも描かれる。信孝は娘が毎日悪夢にうなされていることに悩んでいたところ、銭天堂で獏ばくもなかを見つけた。獏ばくもなかは悪夢を食べる神獣獏が宿っており、食べればどんな悪夢でもみることがなくなる駄菓子だ。しかし、娘が呪いのせいで毎日悪夢にうなされていることを知り、娘に呪いをかけた相手に復讐をしたいという気持ちがうまれた。そこで紅子に「復讐ジンジャーエール」という自分を攻撃してきた相手を見つけ出して復讐する飲み物も勧められた。しかし、ふしぎ駄菓子は一度に一つしか買えない決まりがあり、どちらを買うか信孝は迷う。

『逆襲ジンジャーエール』には、強くひかれていた。真理恵をのろったやつに復讐してやりたいという、凶暴な気持ちがおさまらない。この『逆襲ジンジャーエール』さえあれば、そのねがいがかなうのだ。

だが……。

心をひきずりながらも、信孝はむりやり『獏ばくもなか』のほうに目をうつした。

真理恵に本当に必要なのは、『獏ばくもなか』のほうだ。『逆襲ジンジャーエール』を手に入れれば、真理恵をのろった犯人をとっちめられるだろう。でも、それで真理恵の悪夢がなくなるとはかぎらない。

やっぱり、『獏ばくもなか』だ。こっちを買わなくては。」（『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂三』廣嶋玲子　二〇一四　偕成社　二十三頁）

獏ばくもなかを買ったものの、逆襲ジンジャーエールに少し未練が残っていた信孝に、紅子はこう言う。

『のろいやたたりというものは、やぶられれば、送り主にはねかえるものでございます。うちの菓子は、かならず、おじょうさんののろいをやぶることでございましょう。そうなれば、どうなるか……もうおわかりでございますね？』（右に同じ　二十四頁～二十五頁）

その後、獏ばくもなかを食べた真理恵は悪夢を見なくなった。そして、真理恵に呪いをかけた信孝の同僚は「ばけもの（獏）におそわれる」と苦しみ、会社も辞めた。こうして、信孝は娘の悪夢を消しさり、娘に呪いをかけた相手への復讐もできた。信孝が自分の復讐心を優先せずに真理恵のことを思いやって判断したので、幸福を手に入れることができた。もしも復讐ジンジャーエールを選んでいたら、復讐は成功しただろうが、真理恵は悪夢を見続け

ただろう。そうなればきっと信孝は獏ばくもなかを選ばなかったことを後悔しただろう。

反対に不幸になったのは「怪盗ロールパン」を食べた秀元だ。秀元はどろぼうをしているが腕は悪く、失敗することが多かった。「怪盗ロールパン」は、怪盗ルパンのように華麗な盗みができるようになる。これを食べたことで、目の前で堂々と盗んでも周囲には気づかれないので、宝石など盗みたい放題だった。しかしある日三河刑事に現行犯逮捕されてしまう。

『こんなはずはねえ。おれは怪盗ルパンだ。つかまるはずがないんだ。こんなの、夢だ！　夢だ！　こんなのあるわけない！』（中略）

『ガキのころから、わるいやつをとっちめる人間になりたくてなあ。（中略）で、〈正義の味方、ヒーロー刑事プリン〉って菓子を買ったのさ。あれを食ったおかげか、どんな悪事も今まで見のがしたことはねえ』（中略）

『お、同じ店の菓子じゃねえか。それなのに、おれが買った怪盗ロールパンのほうが、あ、あんたのヒーロー刑事プリンよりもききめが弱かったなんて。そ、そんなの納得いかねえ！』

そこまでさけんだとき、秀元はふいに思いだした。あの店の女が最後にいった言葉を……。

――『おあそびは、ほどほどになさるのが「よろしゅうございますよ。世の中には、お客様を上回る運の持ち主もいらっしゃいますからねえ。そのことをわすれると、ひょっとすると……』（『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂二』廣嶋玲子　二〇一四　偕成社　二十六頁～三十一頁）

三河刑事も秀元と同じように銭天堂で駄菓子を買っていた。同じ銭天堂の客でも、自分の盗みたいという欲を満たすことしか考えていなかった秀元は、正義の味方の三河刑事につかまった。

『銭天堂』は娯楽性が高い児童文学だ。しかし、他人を思いやることの大切さや欲張ると痛い目にあうということが、ストーリーの基本にある。良いことをすれば良い結果になり、悪いことをすれば悪い結果になるので分かりやすい。欲深く他人を思いやらない人間が幸福になる結末は一切描かれていない。ここから読者は、他人を思いやることの大切さを再認識し、第二の喜びの自己の向上を得ることができる。

また、第六十三回青少年読書感想文全国コンクールで「ふしぎ駄菓子屋：銭天堂四～七」を読んだ伊藤龍成さん（佐賀市立開成小学校五年）が佐賀県の入賞者として選ばれている。『銭天堂』は課題図書に選ばれていないので、自由図書として自ら『銭天堂』を選んで書いている。一章―一で「読書感想文を書く時には、第一（単純な娯楽、即物的な刺激としての喜び）にあたる作品は普通選ばない。課題図書選定基準の（4）の『興味本位のものになっていないか。』という部分にひっかかっているからだろうか。」と書いたが、伊藤さんは『銭天堂』で感想文を書き、校内審査と地区審査を通過している（残念ながら感想文は公開されていない）。娯楽性が高い児童文学は課題図書としては選ばれることがなくても、自由図書としては受け入れられている。読書感想文を書く際に第一の喜びにあたる児童文学を選ぶ

人は少ないとは思うが、娯楽性が高くても第二の喜びが描かれている児童文学ならば、選んでも大人に認められることが分かった。娯楽性が高い児童文学でもしっかりと読み込めば第二の喜びを得ることはできる。

## 二章―四　『5分後に意外な結末』シリーズ

『5分後に意外な結末』シリーズは学研から出版されている人気作品だ。「小学生がえらぶ！“こども本”総選挙」のベスト一〇〇にも多くランクインしている（二十位『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』、二十四位『5分後に意外な結末 1（赤い悪夢）』、二十八位『5秒後に意外な結末：ミノタウロスの青い迷宮』、三十位『5分後に意外な結末 4（黒いユーモア）』、三十六位『5分後に意外な結末 2（青いミステリー）』、五十七位『5分後に意外な結末』シリーズが十三位に入っている。また、中学校では一位に選ばれているので、小学生だけでなく中学生にも人気がある。

図八　『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』表紙

一つの話が五から八頁程度なので、五分以内で手軽に読める。一話完結型のショートショートで、ラストのどんでん返しが楽しいシリーズだ。オリジナル作品のほかに、日本や世界の小話や、都市伝説、名作小説、古典落語などを翻案した作品が収録されている。例えば、『5分後に意外な結末 1（赤い悪夢）』には有名な小話の「猿の手」が収録されている。大人にとっては、聞いたことのある小話でも子どもにとっては初めて読むものが多いのだろう。また、『5分後に意外な結末』シリーズには、更に短い話が百話詰まった『5秒後に意外な結末』もある。どの話も二ページで構成されており、ページをめくると意外な結末が待ち受けている。例として『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』から話を一つ引用する。

「その少年は、『自分は、未来の世界から来た』と言った。いきなり話しかけられた大工の棟梁は、返事をするのも面倒くさそうに、その男を追い払った。（二十一頁）

2日後――　再び現れたその少年は、しつこく話しかけてきた。棟梁は、べらんめえ口調で、怒鳴った。『おとといく来やがれ！』（二十二頁）」（『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』桃戸ハル　二〇一六　学研プラス　第5話「未来の世界から来た少年」）

手軽に読めるこのシリーズは、今の子ども達の生活スタイルによく合っている。最近の子どもの多くは、塾や習い事を複数掛け持ちしていて忙しい。図九によると、十一～十三の一次行動（必需行動）と、二十一・三十一～三十三の二次行動（拘束行動）を除いた二十二・四十一～九十六の三次行動（自由行動）の中では、五十一の宿題と五十三の学習塾・予備校と六十一の習い事・スポーツクラブが高い割合をしめている。小学生が勉強や塾・習い事で忙しいのがよく分かる。昔に比べて習い事が多様化しており、少子化や晩婚化により金銭面に余裕があること等が影響している。

「小学生の5割（略）が『忙しい』と感じ、『もっとゆっくりすごしたい』を肯定する割合も高い。勉強や習い事携帯電話・スマートフォンに使う時間など、今の子どもは多忙である。」（ベネッセ教育総合研究所　「第2回　放課後の生活時間調査―子どもたちの時間の使い方［意識と実態］　速報版　〔二〇一三〕　調査結果ダイジェスト（意識と実態）」https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4278　閲覧日二〇一八年一一月六日）

このように、いまどきの小学生は忙しい。放課後は塾や習い事に通い、さらに学校の宿題もしなくてはならないし、もちろん友達と遊ぶ時間も大切である。図十によると、家でゆっくりする時間にはテレビやゲームをする子が多く、特に近年はスマートフォンが普及しており、二〇〇八年と二〇一三年を比較すると、小学五・六年生の両方で倍以上割合が増えている。このようなスケジュールでは読書に費やす時間がない。『5分後に意外な結末』シリーズは、このような多忙な子どもでも隙間時間に読むことができる。

『5分後に意外な結末』シリーズは第一（単純な娯楽、即物的な刺激として）の喜びにあてはまる。気軽に読めるショートショートがこの作品の売りだが、一つの話が短すぎるために第二、第三の喜びは得られない。中には教訓性のある小話が掲載されてはいるが、そもそもこの作品は、5分後の意外な結末を楽しむものなので、ここから自己の変革・向上や生きる指針につながるような自己肯定のエネルギーを得るために読む読者はいないと思われる。

子どもの好む児童文学は、『5分後に意外な結末』シリーズのような第一の喜びのみの作品ばかりのように思われがちである。しかし、『かいけつゾロリ』シリーズ・『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』シリーズには第一の喜びだけでなく第二の喜びも描かれている。しかし第一

の喜びの要素が強いため、第二の喜びが見えにくい。大人は、アニメや漫画のようなイラストやダジャレ等の作品の一部分だけを見て「このような娯楽ばかりで役に立たない児童文学は子どもに読ませたくない」と判断せずに、きちんと内容を理解することが大切である。

図九　基礎集計表【24時間調査（小学生）】（第2回 放課後の生活時間調査 報告書〔二〇一三〕）

| 分類 | 番号 | 行動 | 学年別 第1回（2008年） 小5生（n=1,339） 全体 平均時間（分） | 行為者 比率（%） | 行為者 平均時間（分） | 第2回（2013年） 小5生（n=1,245） 全体 平均時間（分） | 行為者 比率（%） | 行為者 平均時間（分） | 第1回（2008年） 小6生（n=1,264） 全体 平均時間（分） | 行為者 比率（%） | 行為者 平均時間（分） | 第2回（2013年） 小6生（n=1,162） 全体 平均時間（分） | 行為者 比率（%） | 行為者 平均時間（分） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小分類 | 11 | 睡眠 | 524.9 | 100.0 | 524.9 | 521.0 | 100.0 | 521.0 | 506.6 | 100.0 | 506.6 | 505.4 | 99.9 | 505.8 |
| | 12 | 身のまわりのこと | 59.9 | 98.7 | 60.7 | 63.6 | 98.9 | 64.3 | 59.8 | 99.2 | 60.3 | 61.4 | 98.5 | 62.3 |
| | 13 | 食事 | 62.8 | 99.6 | 63.0 | 62.7 | 99.7 | 62.9 | 59.1 | 99.5 | 59.4 | 60.4 | 99.8 | 60.5 |
| | 21 | 通学 | 40.0 | 96.0 | 41.6 | 40.0 | 96.5 | 41.4 | 39.8 | 96.9 | 41.1 | 41.4 | 96.6 | 42.8 |
| | 22 | 移動（通学以外） | 15.4 | 37.6 | 41.0 | 15.5 | 38.3 | 40.4 | 16.6 | 41.3 | 40.1 | 17.6 | 42.3 | 41.7 |
| | 31 | 学校 | 440.3 | 99.2 | 443.9 | 450.6 | 99.2 | 454.3 | 441.3 | 99.4 | 444.1 | 451.7 | 99.8 | 452.5 |
| | 32 | 放課後に学校ですごす（部活動以外） | 10.1 | 16.7 | 60.1 | 9.6 | 16.2 | 59.2 | 12.8 | 22.6 | 56.7 | 10.8 | 18.8 | 57.1 |
| | 33 | 部活動【中学生・高校生のみ】 | | | | | | | | | | | | |
| | 41 | 屋外での遊び・スポーツ | 14.4 | 18.1 | 79.4 | 10.7 | 16.8 | 63.5 | 13.6 | 17.6 | 77.6 | 11.7 | 15.2 | 77.0 |
| | 42 | 室内での遊び | 13.7 | 21.5 | 63.9 | 12.2 | 18.9 | 64.9 | 12.4 | 18.8 | 66.3 | 8.1 | 13.9 | 58.2 |
| | 43 | ゲーム機で遊ぶ | 15.5 | 28.2 | 55.0 | 19.0 | 33.0 | 57.7 | 18.3 | 28.9 | 63.2 | 20.8 | 33.0 | 63.2 |
| | 51 | 学校の宿題 | 36.6 | 81.0 | 45.2 | 42.0 | 86.3 | 48.7 | 34.7 | 78.3 | 44.3 | 40.7 | 84.0 | 48.5 |
| | 52 | 勉強（学校の宿題以外） | 18.8 | 37.3 | 50.5 | 16.1 | 33.2 | 48.6 | 22.7 | 40.7 | 55.7 | 23.1 | 39.8 | 58.1 |
| | 53 | 学習塾・予備校 | 19.9 | 15.5 | 128.4 | 18.6 | 15.5 | 119.9 | 28.9 | 20.6 | 140.7 | 29.2 | 21.3 | 137.2 |
| | 61 | 習い事・スポーツクラブ | 31.4 | 31.3 | 100.5 | 33.5 | 34.1 | 98.2 | 27.6 | 28.2 | 98.1 | 29.5 | 28.2 | 104.5 |
| | 62 | 習い事の練習 | 4.5 | 10.5 | 43.2 | 4.3 | 10.8 | 39.8 | 4.2 | 10.9 | 38.7 | 3.4 | 7.4 | 45.9 |
| | 71 | テレビ・DVD | 61.4 | 77.2 | 79.5 | 53.6 | 71.3 | 75.1 | 67.1 | 75.9 | 88.4 | 50.9 | 67.5 | 75.5 |
| | 72 | 本・新聞 | 5.4 | 12.8 | 41.9 | 5.5 | 13.2 | 41.6 | 5.1 | 13.5 | 37.5 | 5.4 | 13.6 | 40.1 |
| | 73 | マンガ・雑誌 | 6.7 | 17.1 | 39.2 | 6.2 | 14.9 | 41.8 | 7.6 | 19.4 | 39.3 | 6.7 | 17.2 | 38.9 |
| | 74 | 音楽 | 0.8 | 3.1 | 26.7 | 1.3 | 3.7 | 34.9 | 2.7 | 7.4 | 36.5 | 2.6 | 6.7 | 38.3 |
| | 75 | 携帯電話・スマートフォン・パソコンなどを使う | 2.7 | 6.9 | 65.2 | 6.3 | 12.0 | 52.9 | 5.6 | 11.9 | 87.3 | 11.2 | 19.7 | 56.7 |
| | 81 | 家族と話す・すごす | 17.7 | 37.6 | 47.2 | 13.3 | 30.0 | 44.2 | 14.8 | 31.7 | 46.6 | 13.0 | 29.4 | 44.3 |
| | 82 | 友だちと話す・すごす | 5.5 | 7.9 | 69.6 | 4.4 | 6.2 | 71.9 | 5.5 | 8.5 | 64.9 | 3.3 | 5.9 | 55.9 |
| | 91 | 家の手伝い | 4.3 | 14.7 | 29.0 | 4.3 | 14.9 | 28.5 | 4.6 | 16.6 | 27.8 | 4.2 | 14.0 | 30.1 |
| | 92 | 買い物 | 2.5 | 5.3 | 47.1 | 2.0 | 4.3 | 45.3 | 2.0 | 4.4 | 45.0 | 1.9 | 4.8 | 40.2 |
| | 93 | からだを休める | 12.8 | 32.9 | 38.9 | 14.0 | 34.5 | 40.5 | 14.8 | 36.9 | 40.1 | 14.9 | 33.5 | 44.7 |
| | 94 | ペットとすごす | 2.1 | 6.9 | 29.8 | 1.7 | 6.3 | 27.5 | 2.2 | 7.8 | 27.7 | 2.2 | 6.7 | 32.7 |
| | 95 | アルバイト【高校生のみ】 | | | | | | | | | | | | |
| | 96 | その他 | 5.6 | 9.5 | 59.3 | 5.0 | 9.8 | 51.5 | 5.7 | 11.6 | 48.7 | 4.3 | 8.4 | 50.8 |
| | 100 | 無回答・不明 | 4.3 | 6.6 | 64.9 | 2.8 | 4.3 | 63.9 | 3.8 | 6.2 | 62.1 | 4.0 | 4.7 | 85.4 |

図十　メディアの利用時間（平均時間）（第2回 放課後の生活時間調査―子どもたちの時間の使い方〔意識と実態〕速報版〔二〇一三〕）

（分）

| | | 小5生 | 小6生 |
|---|---|---|---|
| テレビやDVDを見る | 2008年 | 103.0 | 112.0 |
| | 2013年 | 94.9 | 98.0 |
| テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ | 2008年 | 35.7 | 36.5 |
| | 2013年 | 41.5 | 43.0 |
| 携帯電話を使う＋スマートフォンを使う | 2008年 | 1.9 | 5.1 |
| | 2013年 | 6.3 | 11.8 |
| パソコンを使う＋タブレット型端末を使う（iPadなど） | 2008年 | 9.7 | 16.3 |
| | 2013年 | 14.2 | 19.0 |
| 音楽を聴く | 2008年 | 6.9 | 12.5 |
| | 2013年 | 8.5 | 16.1 |
| マンガや雑誌を読む | 2008年 | 19.5 | 21.6 |
| | 2013年 | 15.9 | 19.4 |
| 新聞を読む | 2008年 | 2.2 | 3.3 |
| | 2013年 | 1.7 | 2.3 |
| 本を読む | 2008年 | 19.4 | 21.2 |
| | 2013年 | 17.4 | 22.7 |

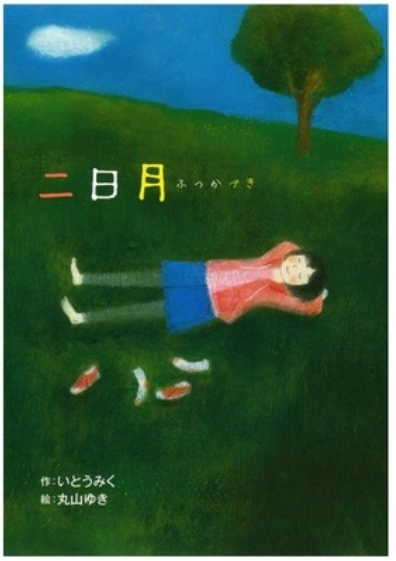
# 三章　大人にも子どもにも選ばれている児童文学

## 三章―一　『二日月』

三章では大人にも子どもにも選ばれている児童文学として、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書かつこどもの本総選挙や朝の読書人気本にランクインしている児童文学を紹介する。

『二日月』（いとうみく　二〇一五　そうえん社）は「小学生が選ぶ！“こどもの本”総選挙」では三十五位に選ばれ、二〇一六年に青少年読書感想文全国コンクールで小学校中学年の部の課題図書に選ばれている。課題図書の選書理由は「障がいのある妹、妹で手一杯で構ってくれない母親。頭ではわかっていても現状を受け入れられない少女の不満や葛藤と、それを乗り越えて成長していく姿、さらに障がいを持った人への思いを穏やかに描いている。」（『課題図書』の選定について」　「学校図書館」　二〇一六年五月号　三〇頁）とある。

杏の妹の芽生は生まれた時の事故で障がいをもち、五歳まで生きられるかどうかと医者に言われた。そのことに両親も杏もひどく衝撃をうける。杏は両親と共に、芽生が長く生きられるように頑張る反面、障がいをもつ芽生を友達に知られるのは恥ずかしいという想いや両親が芽生にかかりっきりなので芽生なんていらなかったと思ってしまう自分に悩む。




図十一　『二日月』表紙

選書理由にある通り、杏の不満や葛藤がよく描かれている。

「あたしはママに話したいことがあっても、話せなかった。（中略）
ママは芽生だけを見ているから。芽生だけを見ていないと死んでしまうと思っているみ

たいに、片時もはなれないから。
あたしなんて、いない子みたい……。（中略）
妹がほしかった。ずっとずーっと妹がほしかった。だけど、あたしがほしかったのは、いつもぐずってばかりいる妹じゃない。病気の妹じゃない。ママをひとりじめにする妹じゃないよ。
わかってる。芽生が悪いんじゃないってことくらい。芽生だって苦しいし、つらいから泣いてるんだ。いじわるをして、ママをひとりじめにしているわけじゃない。」（『二日月』　いとうみく　二〇一五　そうえん社　四十五頁～四十六頁）

このように杏は、母親が芽生に付きっきりで自分にかまってくれないことを不満に感じていた。しかし、芽生が悪いのではないことが分かっているので、余計に感情の行き場をなくしている。
また、学校の友達たちが、同じ学校に通う障がい者の子（ナオト）について話しているのを聞いて、杏はもやもやした気持ちになる。

「『（前略）給食だって投げたり口から出したりするから、みんないっしょに食べるのいやだって。迷惑だよ。』（中略）
『でもオレは、ナオトのこと迷惑なんて思ってないよ。ただ、やっぱりかわいそうだなって思うんだ、障がいのある人って』（中略）
『なりたくて障がい者になった人なんて、いないんだもんね』（右に同じ　七十六頁～七十八頁）

「みんなのことばが、あたしのうえに落ちてきた。迷惑ってことばだけじゃない、藤枝君がいった『かわいそう』も、真由のことばも、いやだった。不快だった。
他人に好奇心であれこれいわれたくない。思われたくない。見られたくない。
同情も、あわれみも、いらない。
けど……。
いちばん最低なのは、あたしだ。
なにもいわなかった。いえなかった。なにもできなかった。」（右に同じ　八十三頁）

杏は何も言うことができなかった自分を責める。このような杏の葛藤がよく描かれている。
そして、タイトルの「二日月」の意味は物語の最後に分かる。帰り道に二日月を見つけて、

「『そう、肉眼ではじめて見える月のこと。昨日は新月だっただろ。そのまえはつごもり。光があたらなくって、月がかくれて見えなくなる日だよ』（右に同じ　二〇六頁）

「『（前略）でも、月っておもしろいよな。満ちて、欠けて、それをくりかえして。太陽みたいにいつも同じじゃないところが好きなんだ。オレ』」（右に同じ）

と、クラスメイトの藤枝君が杏に教えてくれる。これを聞いた杏は『人と似てるんだね、月は』」（右に同じ）と言い月を見つめる。「つごもり」は八章（最後の章）のタイトルにもつけられている。八章で杏は、芽生を学校の発表会に連れてきてほしくないと思ってしまい、そんなことを思ったらいけないと葛藤する。この時の杏は月に例えるとつごもりの状態で、心が暗く隠れてしまっていた。しかし、二日月のように心が少し明るさを見せたり、また満月のような明るい心で芽生のことを「かわいい」と思う時もある。これは決して悪いことではないと杏は気が付く。ここで同時に読者も第二の喜びを見つけることができる。

障がいをもつ妹に対する葛藤という暗く重いテーマを扱っている作品ではあるが、

「でも、あたしはもう知っている。まっくらで、なにも見えなくなるときがあっても、かならずまた満ちていく。明るい明日が、あたしの上にもやってくるって。」（右に同じ　二〇七頁）

と、最後は明るく締めくくられている。

『子どもと文学』では、子どもに人気な作品の特徴は「（前略）登場人物の心理、倫理性、教訓性など、抽象的な要素は弱く、具体性、行動性、リズム、スリル、素材の親近性、明るさ、ユーモアなどの強いことがわかります。」（『子どもと文学』いぬいとみこ、石井桃子ほか　一九六七　福音館書店　一六九頁）と述べられている。しかし、『二日月』は先に述べた通り暗いテーマを扱っている。具体性（分かりやすさ）、スリル、素材の親近性、明るさ、ユーモアの強い作品が子どもに人気なのは今も当てはまるが、今の子どもが好む作品はこれに限らないようだ。

『二日月』は第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びと第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びを得ることができる作品だ。妹や弟（障がいをもつに限らない）をもつ読者は、妹にかかりっきりの両親に対して不満をもつ杏に共感・同調できるだろうし、自分の気持ちが不安定なことに悩んでいる子は「つごもりや二日月の日があってもいいんだ」という発見ができる。

『オムレツ屋へようこそ！』と『ぼくの、ひかり色の絵の具』は、内容などの分かりにくさが子どもにあまり選ばれない理由だと述べた。一方『二日月』は、分かりやすくすらすらと読むことができる。結論の二日月の意味も分かりやすい。これらの点が子どもにも受け入れられている理由だと考える。

## 三章―三　『ぼくたちのリアル』

『ぼくたちのリアル』（戸森しるこ　二〇一六　講談社）は「小学生が選ぶ！“こどもの本”総選挙」では八十三位に選ばれ、二〇一七年に青少年読書感想文全国コンクールで小学校高学年の部の課題図書に選ばれている。課題図書の選書理由は「人を表面だけでとらえるのではなく、その奥に悩みや苦しみがあることを思いやり理解すること、自分の弱い面や辛いことを友達に打ち明けることにより友情が深まり互いに成長できるというテーマを評価した。」（『課題図書』の選定について」「学校図書館」二〇一七年五月号　三十三頁）とある。

飛鳥井渡（アスカ）は、幼馴染で学年一の人気者の秋山璃在（リアル）に対してコンプレックスを持っていた。五年生になり、二人と同じクラスに川上サジが転校してきた。三人は合唱祭や放送室ジャックなどを通じて仲を深めていく。そして林間学校のバクロ大会で三人は本音を語り合う。

図十二　『ぼくたちのリアル』表紙

選書理由にある通り、アスカはリアルの表面だけでなく、その奥にある悩みや苦しみもきちんと受け入れる。

「リアルはすごいやつだから。学年イチの人気者。ナンバーワンでオンリーワン。（中略）服のセンスがよくて、顔もふつうにかっこよくて、性格は明るくてお調子者。くだらない冗談をたくさんいうけれど、根はけっこうまじめで、学級委員長をやったりもしている。

校内でかわいいといわれる女子は、いつも決まってリアルとうわさになるし、あのクールな甲斐先生から、ひとりだけ下の名前でよばれているのに、ひいきされているなんてだれからもいわ

れない。」（『ぼくたちのリアル』戸森しるこ　二〇一六　講談社　四頁～六頁）

アスカは最初、リアルのことをこのように思っている。このようにリアルをすごい奴だと思っているのはおそらくアスカだけではなく、学年のみんなだろう。しかし、バクロ大会でリアルから、弟が死んだのは自分の不注意のせいで起こったこと、それがきっかけで母親が心の病になり離れて暮らしていることに対して「自分ばっかり病気になってんじゃねぇ」と思っていることを聞いたアスカは、リアルも自分たちと同じふつうの小学五年生だと気が付く。

「そうだ、ぼくはわざと見ようとしなかったんだ。

リアルはとにかくすごいやつ。あんなことがあっても、ちゃんと立ち直っている。ぼくなんかとは、もともとぜんぜんちがうんだ。

そんなふうに、リアルのこと手に負えないくらいすごいやつだと思うことで、ぼくはいつも自分を守ろうとしていた。

リアルに弱点がないわけじゃない。リアルの弱い部分から、いつもそうやって目をそらしていたのは、ぼく自身だ。」（右に同じ　一八六頁）

こうしてアスカはリアルのことを表面だけでなく心の奥まで理解することができた。

また、アスカは何でもできるリアルと比べられることが嫌だったが、サジに「『（前略）リアルにはリアルのいいところがあって、飛鳥井くんには飛鳥井くんのいいところがあるんだよ』」（右に同じ　一九〇頁）と言われて考えが変わった。

「ぼくはいままで、リアルの得意なことは、やってもあんまり意味がないみたいに、ずっと思ってきた。ぼくにはどうせ、リアルをこえられない。

だけど、リアルにはできなくて、ぼくにならできることも、ひょっとしたらあるんじゃないのかな。

たとえばぼくはピアノをひくことができる。放送のアナウンスが得意だ。友だちといっしょに、放送室をジャックしたことだってある。」（右に同じ　一九〇頁～一九一頁）

こうしてアスカは、リアルのすごいところばかりを自分と比べて卑屈になるのではなく、自分には自分なりの良いところがあることに気が付いた。ここで読者も第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びを見つけることができる。

第六十三回青少年読書感想文全国コンクールで、内閣総理大臣賞小学校高学年の部で最優秀作品に選ばれた菊池芯太朗さんの読書感想文には、次のように書かれている。

「そして一番大事な共通点は、三人とも弱みや欠点があるということだ。ぼくは今まで弱みや欠点は良くないもの、恥ずかしいものだと思っていた。でも三人と出会って、人は弱い

ところやダメなところがあるからこそ、他人の気持ちが分かったり、他人に優しくなれたりするのだということを学んだ。三人もきっとそういう部分を理解し合えたからこそ、本当の友達になれたのだと思う。」

「題名のもう一つの大事な意味、それは三人がそれぞれ抱える現実、つまり「自分のリアル」と向き合うという意味なのだと思う。この本を読み終えて、ぼくも自分のリアルと向き合ってみたいと思った。（中略）いろいろなことに悩んでいる自分がいる。でも、そんな自分のリアルを受け止めて、それでも前へ進んでいくことが大事なのだと思う。」

（第六十三回青少年読書感想文全国コンクール　「ぼくのリアル」岩手県　北上市立笠松小学校　6年　菊池芯太朗　http://www.dokusyokansoubun.jp/text63rd/skou.html　閲覧日　二〇一八年十一月二〇日）

このように、欠点や弱みは恥ずかしいものではないという第二（新しい発見や、自己の変革と向上）の喜びをみつけ、自分と向き合いこれから前向きに歩んでいこうという第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びがしっかりと描かれている。一章―三で紹介した黒田真希さんの感想文と同じように、一章―一で述べた大人が求める読書感想文の特徴（自己変革や自己肯定などの前向きに生きる姿勢が示されている）に当てはまっている感想文がやはり実際に受賞している。

また、『ぼくたちのリアル』は『二日月』と同じように分かりやすく書かれている。結論の、リアルにはリアルの良さがあり、アスカにはアスカなりの良さがあるというのも、理解しやすい。また、アスカとサジはリアルのために放送室ジャックをするのだが、その状況も分かりやすく書かれている。

「その日は朝からそわそわした。こんなに思いきりルールをやぶるのは、なにしろはじめてのことだから。（中略）

そして放課後。計画実行のときがやってきた。

さっきから、なんだか外がさわがしい。

放送をきいた先生たちが、びっくりして視聴覚室にやってきたんだ。（中略）

校内には、いつものクラシックのかわりに、エルトン・ジョンの『Your Song』が流れている。サジのアイディアだ。」（『ぼくたちのリアル』　一三一頁）

放送室ジャック自体はこのように書かれている。これだけだと、アスカたちがなにをしようとしているかの状況が少し分かりにくい。しかし、

「タイトルがわからないって、リアルが前にいっていたあの曲、名づけて『もんじゃの知恵のテーマ』だ。（中略）

『なんか有名な曲だったみたい。このアルバムの一曲目の〈Your Song〉っていう曲ね。

これ、秋山くん、よろこぶと思わない？』
『うん、絶対よろこぶよ』（中略）
『これさ、ただ教えてあげるだけじゃ、つまらないと思うんだよね』
『ええと、つまり？』
サジから計画をきかされたぼくは、すぐに首を横にふった。（中略）
でもさ、あのときのリアルも、いまのサジも、自分以外のだれかのために必死になっている。ぼくはいつも自分のことを一番に考えてしまうから、そういうとき、ホントにすげぇなって思う。（中略）
ぼくもそういうふうにやってみたいって、そんな気分になるんだよ。だから結局、うなずいちゃうんだよなぁ。
『わかったよ、協力する』
『やった！　ありがとうっ』
よろこぶサジを見ながら、放送委員の女子三人をどう説得しようか、ぼくは心の中で頭をかかえた。」（右に同じ　一一三頁〜一一四頁）

放送室ジャックは、リアルがさがしていた曲（「Your Song」）を放課後にいつもかけているクラシックの代わりにかけて、リアルをびっくりさせようという作戦だ。このように事前に前置きがあるため、読者もアスカたちがなにをしようとしているか分かりやすい。

大人にも子どもにも選ばれている児童文学の特徴の一つ目は、大人の読ませたい児童文学と同じく第二の喜びが分かりやすく書かれていることである。要するに、大人は第二の喜びが読み取れる本以外は基本的に認めない。二つ目は、「分かりやすい」「読みやすい」などの他の本よりも優れている点があることである。子どもは娯楽以外の要素も楽しいと感じる。

# 終章　子どもの読書離れへの対応

一章で、大人が子どもに読ませたい児童文学の特徴は、第二（新しい発見や、自己の変革と向上）、第三（自分自身が共感し同調できる、自己の再認識）の喜びがはっきりと示されていることが分かった。しかし内容や書き方に「分かりにくさ」があり、そこが子どもにあまり受け入れられていない理由である。

二章で、子どもが読みたい児童文学の特徴は、娯楽性が強いために、第二、第三の喜びが隠れていることが分かった。娯楽性が高いところが子どもに人気な理由ではあるが、一方で大人は子どもが娯楽性の高い本を読むことをあまりよく思わない。また、これらにはもちろん例外も存在し、子どもに人気の本には『五分後に意外な結末』シリーズのように、娯楽性のみ描かれている本もある。

三章で、大人にも子どもにも選ばれている児童文学の特徴は、大人が子どもに読ませたい児童文学と同じように第二の喜びがはっきりと示されていることに加え、子どもが本を選ぶときに重視する点（内容がおもしろい、わかりやすい等）が優れていることが分かった。

これらの共通点は、第二・第三の喜びが描かれていることだ。相違点はその描かれ方の違いにある。大人が子どもに読ませたい児童文学と大人にも子どもにも選ばれている児童文学は、主人公が気付いたこと（第二の喜び）を述べてくれるため、読者も主人公と同じように第二の喜びにすんなりと気が付くことができる。一方子どもが読みたい児童文学は、娯楽性が表にあり、そこに隠れて第二の喜びが描かれている。

子どもの読書離れは二〇〇〇年以降特に注目され続けている。しかし今まで見てきた通り、子ども達は本に興味がないわけではなく、むしろ近年の子どもの平均読書冊数は増加している（図一）。『ゾロリ』シリーズなどの娯楽性の高い本のほかに、『二日月』などの娯楽性がない本でも子どもは気に入って読む。

序章で、子どもの読書離れの問題点は、朝の読書でしか本を読まず読書が習慣づいていない子が多いことと、子どもの軽読書化が危惧されていることだと述べた。しかし、私は軽読書化が問題だと思わない。確かに、今子どもに人気の『銭天堂』シリーズや『五分後に意外な結末』シリーズは短い話が複数収録されている。また『ゾロリ』シリーズは特に絵が豊富で児童文学というより漫画のように一見みえてしまうこともある。『五分後に意外な結末』シリーズは一つの話が短すぎるし娯楽としての文学だとは思うが、『銭天堂』シリーズと『ゾロリ』シリーズはそうではない。これらには第一の喜びだけでなく第二の喜びも描かれている。大人は子どもの読む本をイラスト等から「娯楽本だ」と決めつけずにきちんと内容を確認して受け入れるべきだ。子どもが『ゾロリ』ばかり読むことを不安に感じている親は多いようだが、ここで「プレジデントＦａｍｉｌｙ」（二〇一六年秋号）の「東大生が小学生の頃読んで、面白かった本」調査（図十三）（調査人数不明）をみてみる。「東大生が小学生の

頃読んで、面白かった本」で『ゾロリ』シリーズは男子編で一位に選ばれている。さらに、面白かった本の中で小学生に薦めたい本として『ハリーポッター』に並んで二位に選ばれている。このように、『ゾロリ』を読んでいるからといって学力が低下するわけではない。大事なことは読書する習慣をつけることだと思う。東大生は小学校の頃『ゾロリ』だけを読んでいたわけではないと思うが、図十三の通り他の本も決して難しい本などではなく子どもに人気な児童文学ばかりだ。中学生になっても高校生になっても『ゾロリ』のような児童文学しか読めないのは問題だが、小学生の内は好きな本を読ませてあげることが一番良いと思う。

図十三　「東大生が小学生の頃読んで、面白かった本」（PRESIDENT Online　上島寿子 https://president.jp/articles/-/20141　閲覧日二〇一八年十一月二十九日）

**男子編**

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 「かいけつゾロリ」シリーズ | 31票 |
| 2位 | 「ハリー・ポッター」シリーズ | 21票 |
| 3位 | 「ダレン・シャン」シリーズ | 18票 |
| 4位 | 「デルトラ・クエスト」シリーズ | 13票 |
| 5位 | 「ズッコケ三人組」シリーズ（那須正幹 ポプラ社） | 12票 |
| 6位 | 三国志（吉川英治 講談社など） | 9票 |
| 6位 | 「星新一」の本 | 9票 |
| 8位 | エルマーのぼうけん（ルース・スタイルス・ガネット 福音館書店） | 8票 |
| 9位 | バッテリー（あさのあつこ KADOKAWA／角川書店） | 7票 |

**女子編**

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 「ハリー・ポッター」シリーズ | 13票 |
| 2位 | 「黒魔女さん」シリーズ | 6票 |
| 2位 | 「星新一」の本 | 6票 |
| 4位 | 「ダレン・シャン」シリーズ | 5票 |
| 4位 | バッテリー（あさのあつこ KADOKAWA／角川書店） | 5票 |
| 4位 | 「パスワード」シリーズ（松原秀行 講談社） | 5票 |
| 4位 | シャーロック・ホームズ（コナン・ドイル 新潮社など） | 5票 |

**小学生に薦めたい本**（男女ともに）

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 「星新一」の本 | 6票 |
| 2位 | 「ハリー・ポッター」シリーズ | 5票 |
| 2位 | 「かいけつゾロリ」シリーズ | 5票 |
| 4位 | 三国志 | 4票 |
| 4位 | バッテリー（あさのあつこ KADOKAWA／角川書店） | 4票 |
| 6位 | 星の王子さま（サン＝テグジュペリ 新潮社など） | 3票 |

また、同じように、読書感想文も子どもの好きなように書くのが一番だと思う。読書感想文が宿題に出され、嫌々読みたくない本を読まされて本が嫌いになるケースもある。伊藤龍成さんのように『銭天堂』などの娯楽性の高い児童文学で読書感想文を書く子もいるが、多くの子どもは大人の求めている読書感想文を書くために第二の喜びが分かりやすくい書かれている本を選ぶ。大人が子どもの読書を縛りすぎていて、子どもは窮屈さを感じ、本が嫌いになってしまう。子どもの読書離れを防ぐためには、子どもにもっと自由な読書をさせてあげることが必要だと考える。

青少年読書感想文全国コンクールと朝の読書、子どもの本総選挙は、方法は異なるが、「子どもに読書の喜びを感じ、読書を好きになってほしい」という同じ目的をもっている。これは大人が最も子どもの読書に求めていることである。

ここで、子どもに読書を好きになってもらうための取り組みとしてアニマシオンを紹介する。アニマシオンは「同年代の子どものグループを対象に、子どもと本とを結びつける新しい活動です。ブックトークの要素を併せ持っていますが、もっと多種多様で遊びの要素を取り入れて気楽で自由な雰囲気のなかで行われます。」(『児童サービス論』　三十一頁)とあるように、楽しく本と触れ合うことができる。アニマシオンには様々な種類がある。『読書で遊ぼうアニマシオン　本が大好きになる二十五のゲーム』(モンセラット・サルト　一九九七年　柏書房)では二十五個のゲームが紹介されている。例えば、「ダウトをさがせ」というゲームは、一度本を読み聞かせた後、二回目はわざと間違えて読む(「その時三人の海賊が」を「その時四人の海賊が」と読むなど)。聞いている子ども達は、その間違いを指摘するというゲームだ。他にも二チームに分かれて本のなかから問題を考えてだしあう等、様々なものがある。楽しいゲームとしておこなうので、読書が苦手な子でも本を受け入れやすい。しかし、アニマシオンで取り扱った本に関しては面白いと興味を持つかもしれないが、その後他の本を読むことにつなげるのは難しい。

また子ども達は忙しくなるにつれて、本を読む時間を削ってしまう。二章―四でみたように、小学生は習い事などで忙しい。更に、中学校や高等学校にすすむにつれて部活や勉強でますます忙しくなる。本を読むには、図書館に行って読みたい本を選んで借りたり、本屋などで購入したりする必要がある。テレビやスマートフォンと違い、結構手間がかかる。イラストやタイトルから興味をもち読書をする子も多いが、図二でみたように、読みたい本や面白いと思える本と出合えていない子もいる。どの本が面白いのか、またどうやって自分に合う本を探せばいいのか分からないため、読書の魅力を感じる前に本から遠ざかってしまう。

ここで、自分に合う本を紹介してくれるコンテンツを紹介する。近畿大学アカデミックシアターのホームページ(又はスマートフォンアプリ)にある診断コンテンツだ。Twitter か Facebook と連携することによって、ＡＩがＳＮＳの投稿内容を分析し、その人の「潜在的興味に一番合致する本」を紹介するサービスである。ＳＮＳを使用していない場合でも、キャラクター診断シートの十二問の質問に答えることで利用できる。このアプリはＳＮＳの

投稿内容を分析して本を紹介するが、公共図書館や学校図書館で借りたことのある本を分析して他の本を紹介するシステムができると、小学生も利用しやすいのではないかと思う。自分ではなかなか面白いと思える本を探せない子には、このようなシステムを取り入れることで、読書しやすくなる。

子どもの読書離れへの対処法は、子どものうちに読書の喜びを知り読書を習慣つけることと、大人は子どもの読書を否定せずに自由な読書をさせてあげることである。朝の読書などで本を読む機会は十分にあるので、面白い本の探し方を知り読書の喜びを知ることが大切だ。最初はイラストやタイトルから興味をもち、次第に自分の好みの本が分かるようになれば自分に合う本を探しやすくなるだろう。子どものうちに読書の喜びを知り、読書が好きになれば、忙しいときに一時期読書から離れてしまったとしてもまた読書の喜びを得たくなるときがくる。そして、大人は子どもの読書を否定せずに見守り、本が苦手な子にはアニマシオンで本との壁をこわしてあげたりして子どもの読書を支えていくと良い。

## テキスト・参考文献リスト


### 序章

・『児童サービス論』　中川佳樹　二〇一六　近畿大学
・『児童文学の教科書』　川端有子　二〇一三　玉川大学出版部
・「しっかり読んで、深く考える―小学校中学年の部」金子卓　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一四年五月号　二十七頁
・「第五十四回学校読書調査報告」　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇〇八年十一月号　十三頁
・「過去31回分の5月1か月の平均読書冊数の推移」　第六十四回学校読書調査報告　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一八年十一月号　十四頁
・「過去31回分の不読者（0冊回答者）の推移」右に同じ　十六頁
・日本大百科全書　https://japanknowledge.com　閲覧日　二〇一八年九月十九日

### 一章―一

・『読書感想文がスラスラ書ける本　小学5・6年』松下義一監修　二〇一五　成美堂出版　十二頁
・『読書感想文の書き方　・高学年向き・』　吉岡日三雄　二〇〇〇年　ポプラ社　二十八頁
・「読書の喜びをつづる読書感想文の魅力」新井康之　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇〇三年六月号　四十頁
・「第五十九回青少年読書感想文全国コンクール　中央審査評　小学校低学年の部」　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一四年二月号　三十一頁
・「第六〇回青少年読書感想文全国コンクール　中央審査評　小学校高学年の部」　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一五年二月号　四〇頁
・第六十四回青少年読書感想文全国コンクール
http://www.dokusyokansoubun.jp/youkou.html　閲覧日二〇一八年九月十五日
・公益社団法人全国学校図書館協議会
http://www.j-sla.or.jp/contest/youngr/standard.html　閲覧日二〇一八年九月十五日

### 一章―二

・『オムレツ屋へようこそ！』　西村友里　二〇一二　国土社
・『課題図書』の選定について」　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一三年五月号　四十七頁
・「第六十二回学校読書調査」　「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一六年十一月号　三十九頁～四〇頁

一章―三
・『ぼくの、ひかり色の絵の具』西村すぐり　二〇一四　ポプラ社
・『課題図書』の選定について」「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇〇七年六月号　四十五頁
・第六十一回青少年読書感想文全国コンクール「さようなら、だんまり屋の私」愛媛県南宇和郡愛南町立家串小学校　6年　黒田真希
http://www.dokusyokansoubun.jp/text61st/skou.html　閲覧日 二〇一八年十一月二十六日

二章―一
・「第四十八回学校読書調査報告」「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇〇二年十一月号　十三頁
・『朝の読書』全国都道府県別実施校　平成三十年九月三日現在　朝の読書推進協議会調べ」 http://www.tohan.jp/topics/upload_pdf/asadoku_school.pdf　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・ポプラ社　「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」 https://www.poplar.co.jp/company/kodomonohon/　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・ポプラ社　「小学生がえらぶ！“こどもの本”　総選挙」結果発表 https://www.poplar.co.jp/company/kodomonohon/award/index.html　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・e-hon　全国書店ネットワーク　「本を読む子どもが増えている～広がる『朝の読書』運動～」 https://www1.e-hon.ne.jp/content/asadoku_m_0530.html　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・TOHAN「朝の読書」 http://tohan.jp/csr/asadoku/　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・TOHAN「平成28年度『朝の読書」の人気本調査結果発表」 http://www.tohan.jp/news/upload_pdf/20170501asadokuranking.pdf　閲覧日 二〇一八年九月二十八日
・TOHAN「平成29年度『朝の読書』の人気本調査結果発表」 http://www.tohan.jp/news/upload_pdf/20180501asadokuranking.pdf　閲覧日 二〇一八年九月二十八日

二章―二
・『かいけつゾロリちきゅうさいごの日』原ゆたか　一九九九年　ポプラ社
・『かいけつゾロリのきょうふの宝さがし』原ゆたか　一九九九年　ポプラ社
・『かいけつゾロリのじごくりょこう』原ゆたか　二〇〇二年　ポプラ社
・『かいけつゾロリのてんごくとじごく』原ゆたか　二〇〇二年　ポプラ社

・『かいけつゾロリのなぞのうちゅうじん』原ゆたか　一九九二年　ポプラ社
・『角野栄子さんと子どもの本の話をしよう』角野栄子、ひこ・田中他　二〇一五年　講談社　一七九頁、一八五頁
・『ひみつの王国　評伝石井桃子』尾崎真理子　二〇一八　新潮社　六四六頁
・「おはなしめぐり」毎日新聞二〇一一年九月二十八日　十三頁
・巻頭特集インタビュー　〈児童書作家〉原ゆたかさん
https://www.kobun.co.jp/Portals/0/resource/dataroom/magazine/dl/tnavi_plus01_01.pdf
閲覧日 二〇一八年十月十四日
・徒然なるまま かきまくれっ！　「かいけつゾロリの次は何を読めば良いのか～アフターゾロリ問題1～」松島有香　https://kakimakuru.com/blog/23001020170604　閲覧日二〇一八年十一月十日
・徒然なるまま かきまくれっ！　「かいけつゾロリの次は何を読めば良いのか～アフターゾロリ問題2～」松島有香　https://kakimakuru.com/blog/26001120170704　閲覧日二〇一八年十一月十日
・はてな匿名ダイアリー　「小学校司書」https://anond.hatelabo.jp/20180119200212　閲覧日二〇一八年十一月十日
・Business Journal「累計3200万部の『かいけつゾロリ』を創る作者に感動！」松江哲明 https://biz-journal.jp/2012/10/post_914.html　閲覧日二〇一八年十月十四日
・Resemom　『朝の読書』人気ランキング、小学生1位は10年連続あの作品」奥山直美 https://resemom.jp/article/2016/05/09/31314.html　閲覧日二〇一八年十一月十日

**二章―三**

・『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂』廣嶋玲子　二〇一三　偕成社
・『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂二』廣嶋玲子　二〇一四　偕成社
・『ふしぎ駄菓子屋：銭天堂三』廣嶋玲子　二〇一四　偕成社
・「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙」　ベスト一〇 https://www.poplar.co.jp/company/kodomonohon/award/best10.html　閲覧日二〇一八年十一月二十九日
・「銭天堂　ふしぎ駄菓子図鑑」　https://www.kaiseisha.co.jp/special/zenitendo/dagashi/ 閲覧日二〇一八年十一月二十九日
・第六十三回青少年読書感想文全国コンクール　都道府県別入賞者一覧　佐賀 http://www.dokusyokansoubun.jp/list63rd/saga.html　閲覧日二〇一八年十一月二十九日

**二章―四**

・『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』　桃戸ハル　二〇一六　学研プラス
・ベネッセ教育総合研究所　「第2回　放課後の生活時間調査―子どもたちの時間の使い方

［意識と実態］速報版〔二〇一三〕」
https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4700　閲覧日二〇一八年一一月六日
・ベネッセ教育総合研究所「第２回 放課後の生活時間調査―子どもたちの時間の使い方［意識と実態］速報版〔二〇一三〕 調査結果ダイジェスト（意識と実態）」
https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4278　閲覧日二〇一八年一一月六日
・ベネッセ教育総合研究所「第２回 放課後の生活時間調査 報告書〔二〇一三〕」
https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4700　閲覧日二〇一八年一一月六日

**三章―一**

・『子どもと文学』いぬいとみこ、石井桃子ほか　一九六七　福音館書店
・『二日月』いとうみく　二〇一五　そうえん社
・『課題図書』の選定について」「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一六年五月号　三〇頁

**三章―二**

・『ぼくたちのリアル』戸森しるこ　二〇一六　講談社
・『課題図書』の選定について」「学校図書館」公益社団法人全国学校図書館協議会　二〇一七年五月号　三十三頁
・第六十三回青少年読書感想文全国コンクール「ぼくのリアル」岩手県 北上市立笠松小学校 6年 菊池芯太朗　http://www.dokusyokansoubun.jp/text63rd/skou.html　閲覧日 二〇一八年十一月二〇日

**終章**

・『読書で遊ぼうアニマシオン 本が大好きになる二十五のゲーム』モンセラット・サルト著 佐藤美千代・青柳啓子訳 一九九七年 柏書房
・小学校六年間で平均五三三冊！ ボクらはこんな本を読んできた「東大生が小学生時代に読んだ本ランキング」プレジデントＦａｍｉｌｙ 二〇一六年秋号 四十八～四十九頁
・ACADEMIC THEATER「診断コンテンツ」https://act.kindai.ac.jp/personality_test/ 閲覧日二〇一八年十二月十五日
・PRESIDENT Online「東大生が小学生時代に読んだ本ランキング」 上島寿子 https://president.jp/articles/-/20141　閲覧日二〇一八年十一月二十九日

平成三十年度卒業論文

# 「ネット上における人間関係
## ―現実世界の環境とＳＮＳ疲れ―」

15-1-066-0008
平山　優希

# 目次

序章……一
第一章　第一節　ＳＮＳとは……三
第一章　第二節　コミュニケーションツールの移り変わり……五
通信機器とＳＮＳ・ネットに関する年表……七
第二章　第一節　コミュニケーションと多様化するＳＮＳ疲れ……十二
第二章　第二節　若者を取り巻く環境とＳＮＳ……十五
第三章　ＳＮＳに関するアンケート結果と考察……十八
最終章　まとめ……二十五
テキスト・参考文献・参考サイトリスト……二十八

# 序章

近年、私たちの周りではTwitterやFacebookなどのＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）が広く利用されている。それらのツールは人と人とのコミュニケーションや企業や個人の宣伝広告など様々な用途で使用されており、現代では若者を中心に大多数の人々がそれらを生活の一部に組み込んでいる。現在のＳＮＳの普及具合を見ている限り、今後もＳＮＳが衰退せず世界に広がっていくことは確実であると予想できる。しかし、ネット依存や悪ふざけ投稿などが横行し、モラルの低下が問題視されている。また、ＳＮＳ上でのある一定の評価が欲しいがために、必要以上に自分をよく見せようと見栄を張ったりする人々も増えている。

実際、精神科医の香山リカは著書『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』（著：香山リカ　朝日新聞出版　二〇一四年発行）にて、過剰なＳＮＳでの自己アピールはネットのあり方が昔と今で変化しているためであると主張している。過去のネットは、「顔が見えない」「匿名性の高さ」という特徴から、嘘をつくのが当たり前の世界だった。しかし、現在のネットはFacebookのような実名登録が必要なＳＮＳが登場したことからネットで嘘をつく事が前提の世界が崩壊してしまった。このことから自分をよく見せることに嘘がつけず、キャパシティを超えた消費行動に走ってしまう人々が出現した、と述べている。また、情報リテラシーアドバイザーの高橋暁子は著書『ソーシャルメディア中毒　つながりに溺れる人たち』（著：高橋暁子　幻冬舎　二〇一四年発行）にて、店舗でアルバイトをしている大学生が悪ふざけをしている様子をＳＮＳに投稿し、その投稿が炎上したことによって企業から賠償請求されたり大学を退学させられたりするケースや、就職活動にてＳＮＳや就職情報サイトに企業に対する批判や守秘義務違反の投稿をして内定取り消しになることが実際にあると述べている。

私自身、必要最低限のＳＮＳしか利用していないのだが、周りを見渡すと大多数の友人はＳＮＳを日常的に利用しているように見受けられる。その中にはＳＮＳにはまりすぎてきれいな写真を投稿するためだけに話題の商品を買い込む、写真の見栄えを気にするあまり実物とはかけ離れた自撮り写真に加工してからでないと写真を表に出せない、といった友人も存在する。それらは前述したネットの変化による人々の行動変化に当てはまる。また、幸い私の周りにはいないが他人に対する誹謗中傷や悪ふざけ投稿などのモラルにかける投稿をする者も少なからず存在する。そのような状態になったしまった近年のインターネット事情を見て次のようなことを考えるようになった。そもそも、人々はなぜインターネット上に自身の日常生活やプライベートな写真を投稿してしまうのだろうか。それはおそらく、日常にＳＮＳが深く入り込んでしまったからだと予想できる。それでは、いつから現実での家族や友人関係、先輩・後輩の「つながり」で満足できなくなってしまったのだろうか。また、ＳＮＳ上の「つながり」とは、過剰な自己アピールや過激な投稿無しでは成り立たないものなのだろうか。人々をここまでさせてしまうＳＮＳには、承認欲や自

己顕示欲を刺激する何かがあるのではないだろうかと思わざるを得ない。また、インターネット上の変化だけでなく、私たちを取り巻く現実世界でも何かしら変化が起き、それがＳＮＳの使い方に変化を及ぼしているのではないだろうか。

このような現状において、若者のより健全なＳＮＳ利用を考えるため、インターネットやＳＮＳの成り立ちや人々がどのような目的・頻度でＳＮＳを利用しているのかを調査し、本来どのようにＳＮＳとつきあっていくべきかを本卒業論文にて考察する。

## 第一章　第一節　ＳＮＳとは

この第一章第一節では、ＳＮＳそのものについと比較的利用者が多いＳＮＳ（LINE・Twitter・Facebook・Instagram）とはどのような使い方をするのかをこの後の論述のために簡単に説明する。

そもそも、「ＳＮＳ」とは一体何だろうか。

「総務省　安心してインターネットを使うために　国民のための情報セキュリティサイト」（www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/service/07.html　閲覧日　二〇一八年一一月九日）によると、「ＳＮＳ」とは「ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）」の略で、登録された利用者同士が交流できるＷｅｂサイトのサービスのことを指す。現実の友人同士はもちろんのこと、共通の趣味を持つ見ず知らずの人同士が集まりコミュニティを持つことで、密接なコミュニケーションをとることができる。個人間だけでなく、企業や団体の広報活動にも利用されることが増えてきている。

| SNS の名称 | サービス内容 |
|---|---|
| LINE | 無料でチャットや電話が利用できる。また、電子マネーやソーシャルゲームなど次々と新しいサービスが展開されている。 |
| Twitter | 「つぶやき」という 140 字以内の短い文章や写真、動画を投稿できる。 |
| Facebook | 実名でアカウントを登録し、（本人だと分かればペンネームも可能）基本的な SNS の機能（プロフィール公開・写真や動画の投稿など）が利用できる。 |
| Instagram | 撮影した写真や動画をフィルタ機能などで加工し、公開できる。 |

【参考サイト】
LINE　ホームページ（https://line.me/ja/　閲覧日　二〇一八年一一月九日）
「Facebook（フェイスブック）とは?」（fb-guide.net/article-1/　閲覧日　二〇一八年一一月九日）
「インスタグラムとは?　他のＳＮＳとの違いは?」（istg-navi.net/article-1/　閲覧日　二〇一八年一一月九日）

その上で「ＳＮＳ」と聞いて初めに思いつくものは何だろうか。LINE や Twitter を挙げる者が多いと思うが、それら以外にも次々と新しいネット上のコミュニケーションツールが誕生している。実名登録必須の Facebook やデジタルアルバムのような Instagram などが有名だろう。それらのＳＮＳの多くは自分のアカウントを持つことで、プロフィールや写真

を投稿するシステムになっている。投稿内容を公開する範囲を制限する機能やチャット機能、特定の仲間内のみで情報やデータファイルのやりとりを行うことができるグループ機能など、多くの機能が利用されている。

各ＳＮＳに共通することは、気に入った投稿に「いいね！」というマークをつけることができる機能が存在することである。この機能は、「いいね！」をすることによって発信者に通知が届くシステムになっているため、「私はこの投稿を気に入りました」という意思表示になる。また、自分が過去に「いいね！」をした投稿は一覧で表示されるため、ブックマークのような機能も兼ねている。

情報の拡散量は Twitter がずば抜けて多く、出来事の重大さに関係なく一瞬で情報が拡散・共有される。しかし、匿名性が高いため誤報も多い。反対に、Facebook のニュースや情報が拡散されるスピードは速くないが、実名登録であるため情報の発信元が明らかになり信用度が高いと言える。匿名性が高いＳＮＳは気軽に情報を発信できる反面、信憑性が低いためトラブルに発展しやすい傾向にある。そのため、非常識な行動の写真や動画を投稿する、いわゆる「バカッター」や精巧に作られたフェイクニュースなどが拡散され、炎上してしまうことも少なくない。例を挙げると、二〇一三年頃には、コンビニのアイスクリームケースの中に入ってふざけている写真をTwitter に投稿し、炎上した後に氏名や住所などをネット上に晒され退学や内定取り消しなどの重い処分になってしまったケースが多発した。モラルのない投稿をするユーザーを「Twitter」＋「バカ」で「バカッター」と呼ばれるようになり、一時社会問題となった。また、二〇一六年に発生した熊本地震の際には、「動物園からライオンが逃げ出した」という悪質なデマが拡散され、多くの人々を混乱させた。この投稿をした犯人は、動物園の営業を妨害したとして逮捕された。災害時にデマを流して業務妨害したとして逮捕されたのはこの事件が全国で初めてとなった。

ＳＮＳは情報をリアルタイムで共有することができる便利なコミュニケーションツールであると同時に、投稿内容によっては嘘の情報を掴まされたりあるいは自分の投稿が炎上することで大きな損害を受けることになる可能性がある。信用できる情報なのか慎重に吟味し、自分自身の投稿にも責任をもたなければ安全にＳＮＳを利用することはできないだろう。

第二節では、ＳＮＳが登場する以前から現在までの通信機器やネット上のコミュニケーションツールの移り変わりについて簡単に説明する。

東京大学大学院総合文化研究科教授であった（現在は立教大学社会学部教授）木村忠正の著書『デジタルネイティブの時代　なぜメールせずに「つぶやく」のか』（著：木村忠正　平凡社　二〇一二年発行）や、慶応義塾大学環境情報学部教授である小川克彦の著書『つながり進化論　ネット世代はなぜリア充を求めるのか』（著：小川克彦　中央公論新社　二〇一一年発行）によると、一九八〇年前後以降に生まれたデジタル技術に青少年期から本格的に接した世代を「デジタルネイティブ」と呼び、さらにこの世代を四世代に分類できるということである。

まず、一九八二年生まれまでを第一世代と呼ぶ。彼らが誕生した時にはすでにＰＣネットが存在していたが、ビジネス中心に普及していたため家庭にはほとんど普及されていなかった。しかし、一九八三年のファミリーコンピューターの発売によって家庭用にデジタル機器が急速に浸透していくきっかけとなった。一九八七年には携帯電話サービスが、一九九五年には家庭にもＰＣネットが普及され始め、翌年の一九九六年には Yahoo!Japan がサービスを開始させる。しかし、デジタルコンテンツが不十分であったため、現在のような写真や動画ではなく絵文字やデコレーションなどによって自己表現をしていた世代である。また、一九八五年から一九九六年にかけてポケベルが主に女子高生の間で急速に普及された。ポケベルの小さな画面には一般電話から十字程度の数字しか表示されなかったが、彼女たちは「0840＝おはよう」のような語呂合わせや仲間内でのみ共有することができる略語を使ってやりとりを行っていた。この頃から、直接会話することや書面でのやりとり以外のコミュニケーションツールが世の中に浸透してきたと考えられる。しかし、一九九五年から開始されたＰＨＳサービスや一九九七年から開始された携帯電話のメールサービスに急速に移動することになり、ポケベルは衰退していった。ＰＨＳは携帯電話に比べて料金が安いこととポケベルと比べて双方向の通話やメールができることが女子高生の人気を勝ち取ったのである。その後、ポケベルは漢字表示機能や基本料金無料などの対策を行ったが、利用者数は減少し続け二〇〇七年に最大の事業者であるＮＴＴドコモはサービスを終了した。

次に一九八三年から一九八七年生まれを第二世代と呼ぶ。この世代が高校生になる頃にケータイメールが、大学生になる頃に mixi がサービスを開始する。しかし、この頃はまだパケット代が定額ではなかったため、パケット代を気にしながらメールを利用していた。この頃の通信機器やコミュニケーションツールは現在のものの基本になっていると考えられる。また、二〇〇〇年に中央省庁のＷｅｂ改ざんが相次ぐなどのセキュリティに対する問題が浮上したため、不正アクセス禁止法が施行された。

一九八八年から一九九〇年生まれを第三世代と呼び、この年代に生まれた世代が高校生になる頃にはパケット定額制が導入され、よりメールやＳＮＳに触れ合う機会が多くなっ

た。それに伴い、個人情報の漏洩が問題になり、二〇〇五年に個人情報保護法が施行された。また、この世代が高校生になる頃にはニコニコ動画がサービスを開始したり、YouTube が日本語に対応するなど動画コンテンツが登場した。さらに、二〇〇八年から Twitter・Facebook が日本語対応を始めた。これにより若者の間ではケータイメールから Twitter にコミュニケーションの場が徐々に移り変わっていき、二〇一〇年には Twitter が大流行した。

一九九一年以降に生まれた世代を第四世代と呼び、この世代は生まれた時点ですでに周りにインターネット環境が整っていた世代である。そのため、小学生からネットリテラシーを学ぶ目的でＰＣの授業が教育課程に組み込まれており、中学では技術・家庭科で「情報とコンピュータ」が、高校では「情報」が必修化された。また、特にこの世代は複数のＳＮＳアカウントを使い分け、オンラインでのみ関わる独特の人間関係が自然に構築されていることが多い。そのため、現実の人間関係とオンライン上の人間関係の二つの軸が生活に取り入れられている。

ポケベルからスマートフォンに機械が移り変わると共に、コミュニケーションツールも次々と開発されてきた。より便利で簡単な連絡手段とは、機械の重量や機能はもちろんだが、レスポンスの手軽さやタイムラグの少なさなども含まれている。返信には必ず文章や電話で返さなくてはいけなかったものがスタンプや「いいね！」ひとつで済むようになっていった。また、文章だけでなく鮮明な写真や動画を送信することも可能になった。このことに関して言えば、人類 8 はたった三十年程で通信機器とコミュニケーション方法の目まぐるしい進化を遂げたと言えるだろう。

| 西暦 | 主な通信機器 | 主な SNS・ネット | SNS・ネットをめぐる出来事 |
|---|---|---|---|
| 1982 年 | ・ビジネスを中心に PC ネット普及 | | |
| 1983 年 | ・ファミコン発売（家庭用ゲーム機の急速な発展・発達）（7 月） | | |
| 1985 年 | ・ポケベルが急速に普及され始める | | ・初のコンピュータウイルス誕生<br>・ＮＴＴ設立（4 月） |
| 1991 年 | | | ・世界初のＷｅｂサイトが設立される |
| 1992 年 | | | ・日本初のＷｅｂサイトが設立される |
| 1994 年 | | ・Yahoo!誕生（2 月） | ・首相官邸のＷｅｂサイトが開設される |
| 1995 年 | ・家庭に PC ネット普及開始<br>・Windows 95 発売 | ・ＰＨＳサービス開始（7 月）<br>・NTT「テレホーダイ」サービス開始（8 月） | |
| 1996 年 | | ・Yahoo!Japan サービス開始（4 月） | |
| 1997 年 | | ・携帯電話のメールサービス開始 | ・パソコン情報雑誌「週刊アスキー」創刊 |

| 西暦 | 主な通信機器 | 主な SNS・ネット | SNS・ネットをめぐる出来事 |
|---|---|---|---|
| 1998 年 | ・Windows 98 発売 | | ・大学生の就職活動でもインターネットが不可欠になってくる |
| 1999 年 | | ・ＮＴＴドコモが「ｉモード」サービス開始（2 月）<br>・2 ちゃんねる開設（5 月） | ・携帯電話によるインターネット接続サービスが急速に普及 |
| 2000 年 | ・Windows 2000 発売 | ・Google が日本語での検索サービス開始（9 月） | ・中央省庁のＷｅｂ改ざんが相次ぐ（1 月）<br>・不正アクセス禁止法施行（2 月）<br>・西鉄バスジャック事件（5 月） |
| 2001 年 | ・Windows XP 発売 | | ・ブロードバンド元年（常時接続定額制） |
| 2002 年 | | | ・小中学校の「総合的な学習の時間」、中学の技術・家庭科「情報とコンピュータ」必修化<br>・無線 LAN 実験の実施 |

| 西暦 | 主な通信機器 | 主な SNS・ネット | SNS・ネットをめぐる出来事 |
|---|---|---|---|
| 2003 年 | | ・Skype サービス開始（8 月） | ・高校にて教科「情報」必修化 |
| 2004 年 | | ・Mixi、Facebook（2 月） | ・パケット定額制普及 |
| 2005 年 | | ・YouTube 設立（2 月）<br>・ブロードバンド放送サービス「GyaO」開始（4 月） | ・個人情報保護法の全面施行（4 月） |
| 2006 年 | | ・Twitter 設立（6 月）<br>・ニコニコ動画サービス開始（12 月）<br>・ワンセグサービス開始 | |
| 2007 年 | ・初代 iPhone 発売（日本未発売） | ・ニコニコ生放送サービス開始 | ・ＮＴＴドコモがポケベルのサービス終了<br>・子どもの携帯インターネットトラブルが急増 |
| 2008 年 | ・iPhone3G 発売（日本初登場） | ・Twitter 日本語版公開（4 月） | ・PHS サービス終了 |
| 2009 年 | ・iPhone 普及<br>・Windows 7 発売（10 月） | ・NAVER まとめサービス開始 | ・仮想通貨「ビットコイン」の運用開始 |

| 西暦 | 主な通信機器 | 主な SNS・ネット | SNS・ネットをめぐる出来事 |
|---|---|---|---|
| 2010 年 | ・初代 iPad 発売 | ・電子書籍リーダーが次々に発売される | ・スマートフォン元年<br>・Twitter がブレイク |
| 2011 年 | ・スマートフォンの利用が急速に拡大し始める | ・LINE サービス開始（6 月） | ・アラブの春（1 月）<br>・首相官邸が公式 Twitter アカウントを開設（11 月）<br>・大学入試試験の問題が試験中にネット掲示板に投稿される |
| 2012 年 | ・Windows 8 発売（10 月） | ・Amazon kindle ストア（日本語版）開設 | ・遠隔操作ウイルス事件が発生 |
| 2013 年 | | ・6 秒動画「Vine」サービス開始 | ・「バカッター」話題に<br>・首相官邸が Facebook に公式ページを開設（1 月） |
| 2014 年 | ・格安スマホが次々に発売される | ・ＮＴＴドコモが通話完全定額制サービス「カケホーダイ」開始（6 月） | ・LINE のアカウント乗っ取り被害が急増<br>・あらゆるものがインターネットにつながる「IoT」が広がり始める |

| 西暦 | 主な通信機器 | 主な SNS・ネット | SNS・ネットをめぐる出来事 |
|---|---|---|---|
| 2015 年 | ・Windows 10 の無償ダウンロード提供開始（7 月） | ・音楽配信定額サービス本格化（6 月） | ・Twitter のアカウント乗っ取り被害が急増 |
| 2016 年 | | Pokémon Go が日本国内でもリリース（7 月） | |
| 2017 年 | iPhone X 発売<br>Nintendo Switch 発売 | YouTube kids 提供開始 | |

【参考文献】


・「インターネット歴史年表」https://www.nic.ad.jp/timeline/　閲覧日　二〇一八年七月一日

・「インターネットの主な出来事 1995- 2015」
https://bbpromo.yahoo.co.jp/special/history/chronology/　閲覧日　二〇一八年七月一日

・『デジタルネイティブの時代』　著：木村忠正　平凡社　二〇一二年発行

・『つながり進化論　ネット世代はなぜリア充を求めるのか』
著：小川克彦　中央公論新社　二〇一一年発行

・「インターネットの歴史　history of The Internet」　https://internethistory.yahoo.co.jp
閲覧日　二〇一八年　十二月一日

通信機器とＳＮＳの目まぐるしい発展によって、私たちのコミュニケーションは昔と比較してより簡単にかつリアルタイムで行うことが可能になった。しかしその一方で、ＳＮＳの便利な機能によって苦しめられ、「ＳＮＳ疲れ」している人々が一定数存在する。

最初に「ＳＮＳ疲れ」について説明する。『ソーシャルメディア中毒　つながりに溺れる人たち』（著：高橋暁子　幻冬舎　二〇一四年発行）の七十二ページによると、「終始自分の生活が他人に見られており、他人の目を意識して生活しなければならないこと。他人の生活が見えるため、気になって自分と比較してしまうこと。他人の自分に対する関心が「いいね！」やコメント、トークの返信などをしなければならないという思いにとらわれ、楽しさではなく義務感で続けてしまうこと。ＳＮＳ自体が持つそのような仕組みから、ＳＮＳ疲れは起きるのだ。」とある。この他にも、日本人特有の「みんながしている」ということに対して弱い、右へならえの習性も関係していると考えられる。周りのみんながＳＮＳを利用しているから、みんなが「いいね！」をしているから、自分もやらなくてはいけないなどの同調圧力に支配されてしまい、そこから抜け出すことが難しいためＳＮＳ疲れしている様に感じられた。

「ＳＮＳ疲れ」の例を挙げると、メッセージアプリの「LINE」には、自分がメッセージを送った相手がそのメッセージを読むと「既読」とトークルームに自動で表示される機能がある。この機能が登場したことによって、従来のメールでは相手がメッセージを読んだのかどうか返信が返ってくるまで判断ができなかったが、LINE の様に「既読」の表示があれば、相手からの返信がなくてもメッセージが読まれたことが判断できる。「日経デジタルマーケティング　あれから三年、〝震災生まれ〟の LINE が命を救い、スマホが募金プラットフォームに」（https://business.nikkeibp.co.jp/article/nmgp/20140310/260877/　閲覧日　二〇一八年十二月三日）によると、この機能は元々東日本大震災の発生がきっかけで開発され、災害時などの返信がすぐにできない状況下でも、安否確認が取れるようにすることを目的に実装されたという背景がある。このことから、たとえ返信がなくても既読が表示されれば相手に伝わったと考えるべきだが、メッセージを読んだにも関わらず返信が返ってこない状態を「既読無視」と呼び、あまり良い意味では捉えられなくなっている。既読をつけてしまったが最後、すぐに返信を返さないと相手を不快な気持ちにさせてしまうのではないかと不安とプレッシャーがかかるようになる。リアルタイムで相手がメッセージを読んだかのどうかわかる利便性が「既読無視」という新たなルールを作り、それが原因でいじめに発展してしまったりするため、かえってＳＮＳを気楽に楽しむことができなくなり窮屈な思いを強いられているのである。

また、近年ではＳＮＳでの友達の数や「いいね！」・リツイートの数が多いほど他者に認められていると考える傾向になってきている。投稿に対する反応が大きければ大きい程、影響力と人気があると認知されるためである。そのため、「自分の身の回りで起こった出来事」

を投稿するというよりむしろ「友達の反応がいいもの」や「誰かに見せびらかしたい内容」を基準に生活が楽しそうで充実していそうな投稿をする「リア充な自分」のブランド化が起こる。しかし、毎日のように充実した生活を送っている人は少ない。大半の人々は日常に時々起こる程度の充実した出来事をＳＮＳ上に投稿するくらいにとどまるが、一部の見栄っ張りの人はより多くの称賛や「いいね！」を求めてしまう。その結果、ＳＮＳで自分をアピールするために、一回で完結する珍しい習い事に参加したり、おもしろい商品を購入したり、珍しい場所に出かけてみたりする行動を指す「ネタ消費」に走ってしまう。「ネタ消費」が増加した原因のひとつに、序章で述べたFacebook の様な実名登録が必要なＳＮＳが登場したことによって嘘をつくことが当たり前だったネットの世界が崩壊したことが挙げられる。この一連の行動も、多くの称賛が得られれば快感になるが、そのために無理な消費行動を起こすことによってストレスを感じているなら、一種の「ＳＮＳ疲れ」に分類できる。

これらの行動は、誰かに認められたいと思う「承認欲求」が関係していると考えられる。はじめに「承認欲求」とは何なのかを明確にする。『ソーシャルメディア中毒　つながりに溺れる人たち』（著：高橋暁子　幻冬舎　二〇一四年発行）の五十二ページによると、「承認欲求には、大きく分けて「他者承認」と「自己承認」の二つがある。他人から認められたいという想いと共に、自己肯定できる自分でありたいという想いがあるのだ。他者に認められるだけでなく、今の自分に満足して好きになれるか、自己肯定できるかということも承認欲求のひとつであり、大きな課題となる。」と説明されている。つまり、他者から認められるためにＳＮＳ投稿によるリア充アピールが行われ、その投稿に多くの称賛の声が集まれば「他者欲求」は満たされる。また、「他者承認」が満たされれば満たされる程、自分自身に対して満足することが少なからずできるため「自己承認」も同時に満たすことができると考えられる。しかし、今の自分に満足し自己肯定ができるのかどうかという点が大きな課題だと述べられていることより、「他者承認」を得ることよりも「自己承認」を得ることが難しいということが容易に理解できる。人が自分自身の存在を認め、十分な自己肯定感を得られる様になるには、膨大な数の「他者承認」が必要になることがわかる。そのため、ＳＮＳに必要以上にのめりこみ、身の丈以上の投稿によって承認を集めるために「ネタ消費」に走ってしまう。さらに、ごく一部ではあるが、承認欲求の暴走によって不正アクセス・ハッキングなどの犯罪行為や自撮りの過激化などによって、自分がいかに優れているのかをアピールしようとするケースもある。

第一章でも述べた通り、ＳＮＳとは本来はインターネットを利用した双方向のコミュニケーションツールであるが、社会問題に対する自分の考えや物事の定義を一方的に主張するものであると勘違いされ始めている。また、若者のほとんどが他者に認められたい願望を持っているが、なかなか認められないというジレンマに陥っているため、ＳＮＳでリア充アピールなどの自己表現を行う様になった。しかし、自身の書き込みを他者に深読みされる、または他者の書き込みを深読みしてしまうことや、投稿に関してコメントをしたり「いいね！」を押さなくてはならないといったような同調圧力で心のエネルギーを過剰に消費し

てしまっている。ＳＮＳが主流になる以前も、返信にかかる手間やタイムラグ、必ず丁寧な返信を返さなくてはならない暗黙のルールなどがストレスになっていたが、現在はＳＮＳのコミュニケーションによって生み出された密接な関係性や同調圧力に対する弱さなどが相まって新たなストレスである「ＳＮＳ疲れ」になっているのである。結局、どの世代のデジタルネイティブにもコミュニケーションをとる際に気を付けなければならない「空気」や「暗黙のルール」による圧力が存在し、その重さは時代や通信機器、人々のコミュニケーション方法が移り変わったとしても大きな変化や改善は見受けられないように思われた。

第二章第一節にて、「ＳＮＳ疲れ」について取り上げた。そこで見えてきたものは、承認欲求に飢えた人々があまりにも多いことや、周りの同調圧力によってコメントや「いいね！」をやらざるを得ない状況になってしまい、ストレスを感じる人々がいるということである。これらは人々が現実の現状に満足していないことや周りからの圧力によって、ＳＮＳから距離を置くことが難しくなっているということが原因であるが、これ以外にもＳＮＳから離れられない原因があるのではないだろうか。承認欲求を満たすことや周りの同調圧力以外にもＳＮＳを利用してしまう環境があり、それが若者をＳＮＳに没頭させている可能性があるのかもしれない。

『つながりっぱなしの日常を生きる　ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの』（著：ダナ・ボイド　訳：野中モモ　草思社　二〇一四年発行）には、アメリカの若者とＳＮＳの関係性と彼らを取り巻く環境についての多くの例が書かれている。いくつか例を挙げて紹介する。

他者に自分のプライベートについて詮索されることが苦手な十五歳の少女の場合、友達やクラスメイト、両親からのしつこい質問を避けるために、自分の生活の「軽いバージョン」をFacebook に投稿するようにしている。そうすることによって、友達やクラスメイトから何が起こったのかをしつこく聞かれることがなくなった。彼女は何の情報もシェアしないでいるよりも情報を少しだけ公開した方が自分のプライバシーが保たれることを発見した。プライバシーを守るために、あえてプライバシーを公開するのである。この方法は、使い方によってはうまくプライバシーを守ることができる健全な方法であるが、健全でない使い方をすることも当然可能であると思われた。例えば、自分の暮らしについて多少華やかに盛り付けた日常をＳＮＳに投稿することによって、家庭で起こっている虐待などの表ざたにしたくない現実を隠すことができるだろう。

また、十八歳と十六歳の姉妹の場合、自分たちがFacebook 中毒のようであることは自覚していた上に、インターネット上で友達に会うよりも直接会って会話したほうがいいことを知っていた。さらに、彼女たちの両親がインターネットに長時間を費やすことは快く思っていないことも十分に理解していた。それでもやめられない理由は、彼女たちの両親が過保護であるためだという。彼女たちの両親は、彼女たちが望む頻度で家の外に遊びに行くことを許さないため、友達と直接つながる時間が確保できないのだ。そのため、彼女たちは仕方なくＳＮＳを利用し、現実で会えなかった分を補っているのである。

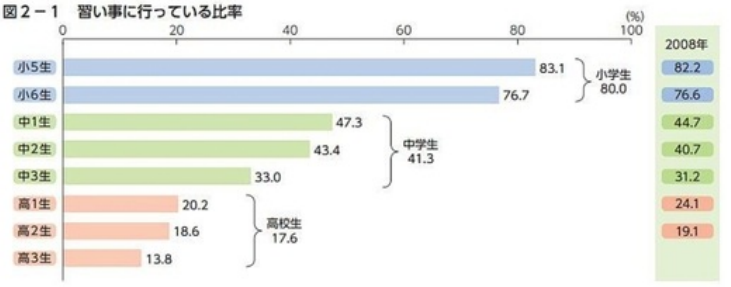
この他にも、自分の母親が日々のスケジュールを管理しているため、自分のための自由な時間がないという一五歳の少女も存在した。彼女は母親が決めたスケジュールは好きではないが、母親はそれらが娘にとって重要なことであると考えているため、彼女はあきらめて受け入れている。友達と十分に交流する時間がないため、学校で孤立しているように感じるようであった。過密なスケジュールの合間をぬってなんとか友達と交流するために、彼女は

ＳＮＳ上でおしゃべりをするようになった。

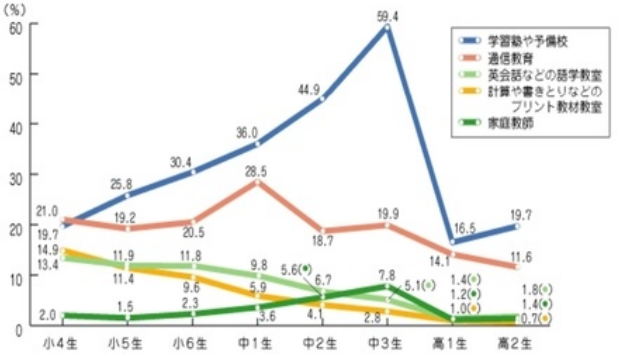
いくつかの事例で分かったことは、若者たちは必ずしもＳＮＳをやりたくてやっているわけではないということだ。インターネット上で友達と会話することよりも、直接会って話す方がいいことは十分に理解している。しかし、周りの環境が若者たちの時間を制限し、友達と直接会う時間を奪っているのである。

実際に、若者たちの両親や周りの大人たちはＳＮＳのテクノロジー自体が若者を引きつけてインターネット中毒にしていると考えている。しかし、現実はテクノロジーではなく若者たちを取り囲む環境がインターネット中毒に拍車をかけている。例えば、子どもを狙った犯罪が増えていることなどが原因で、親たちが家の外に遊びに行くことを子どもの安全のために許さないことにより、物理的に友達との直接の交流が断絶されてしまうのである。そうすると、子どもたちが友達と直接遊んだり会話できなかった分をＳＮＳ上の交流によっ

図２－１　習い事に行っている比率




■学校以外での学習（学年別・複数回答）



て埋め合わせようとするのは自然なことであると考えることができる。また、外出を禁止させるだけでなく、親が子どものスケジュールを管理することによって間接的に外出できない状況を作ってしまっている。これは親に限ったことではなく、毎日大量の課題を課す学校や塾、部活、習い事やアルバイトも原因になっていると思われる。

また、大人や友達からの過干渉から逃げるためにＳＮＳを利用する若者が存在することも分かった。他者が自分のプライベートに必要以上に踏み込んでこないように、あえて情報を公開して他者をけん制する使い方をするのである。そうすることによって、親から学校で今日あったことを根掘り葉掘り聞かれることや、友達やクラスメイトから余計な詮索をされることが減り、結果的にストレスを感じることが減る効果がある。

前述したアメリカの若者がＳＮＳを利用する原因は、アメリカ特有の原因ではなく日本の若者にも当てはまる部分があるだろう。日本の学生も日々の課題や部活、習い事やアルバイトを一日に詰め込んでいるため、友達と直接会話する時間やどこかに一緒に出掛ける時間は少ない。これは高校生や大学生に限ったことではなく、一六ページに掲載したグラフから読み取れるように、最近の小学生や中学生も学校が終わってから塾や習い事に通う子どもが増えている（「データで知る「塾・受験・教育現場」」https://www.inter-edu.com/juku/contents/research/research-141030/　閲覧日　二〇一八年十二月二日、「ベネッセ教育総合研究所」　https://berd.benesse.jp/berd/data/dataclip/clip0006/　閲覧日　二〇一九年一月九日）ことから、日本の若者もアメリカの若者と同様で、周りの環境も作用してＳＮＳに没頭するようになっていると言える。

若者がＳＮＳをやめられない、もしくはやめない理由はさまざまである。その理由は、「みんながやっているから」というような同調圧力や、「誰かに自分のことを認めてもらいたい」といった承認欲求だけではなく、「現実では時間がないから、インターネット上でつながるしかない」といった周りの環境からくる原因もあることが分かった。前者は「みんながやっているから、友達とつながりっぱなしで疲れる」といったＳＮＳの機能によって受けるストレスである。それに対して後者は「友達と直接交流する時間が取れないから、仕方なくＳＮＳを使わざるを得ない」といった自分が置かれている環境に対するストレスであった。このことから、人々がＳＮＳに没頭してしまうがなかなかやめることができない要因は、ＳＮＳが持つ便利で簡単なコミュニケーションツールとしての魅力やＳＮＳでつながっていないといけないと思わせる圧力だけではなく、ＳＮＳを使わなければ友達とつながることすらできないという環境や周囲の過干渉から自分の身を守るためにあえて使わざるを得ない状況になっていることも合わさって起こるということだと考えられた。

## 第三章　ＳＮＳに関するアンケート結果と考察

本卒業論文を執筆するにあたって、参考文献などの事例以外の身近なＳＮＳの利用状況や利用する目的、ＳＮＳを利用していて起こったトラブルなどについてのアンケート調査を行った。

【調査方法】

大学生・短期大学部生を中心とした対象者四十八名（男性名、女性名、平均年齢歳）にグーグルフォームを利用したネットアンケート調査を行った。

【質問事項】

①あなたの年齢をお答えください。（任意）

②あなたの性別をお答えください。（任意）

・男性　・女性

③あなたはＳＮＳ（例：LINE・Twitter・Facebook・Instagram 等）を利用していますか？（必須）

・利用している　・過去に利用していた　・利用していない

④③で「過去に利用していた」を選んだ方に質問です。あなたがＳＮＳを利用しなくなったのはなぜですか？（必須）

⑤③で「利用していない」を選んだ方に質問です。あなたがＳＮＳを利用しないのはなぜですか？（必須）

⑥③で「利用している」「過去に利用していた」を選んだ方に質問です。利用しているまたは利用していたＳＮＳはどれですか？（必須）

・LINE　・Twitter　・Facebook　・Instagram　・その他

⑦あなたがＳＮＳを利用するのは、大きく分けてどのような目的ですか？割合が大きい方を選んでください。（必須）

・画像や動画、つぶやきを見る等の情報を見る目的

・画像や動画、つぶやきを投稿する等の情報を発信する目的

⑧どれくらいの頻度でＳＮＳを利用していますか？それぞれのＳＮＳごとにお答えください。（必須）

選択肢：①毎日　②週に一日か二日利用しない日がある　③週に二～三日利用する程度　④週一日　⑤月に二～三日　⑥その他　⑦未使用

ＳＮＳ項目：①LINE　②Twitter　③Facebook　④Instagram　⑤その他

⑨どのような目的で利用していますか？それぞれのＳＮＳごとにお答えください。（必須、複数回答可）

選択肢：①連絡手段　②近況報告　③思い出の共有　④情報収集　⑤周りがやっている

から ⑥未使用

ＳＮＳ項目：①LINE ②Twitter ③Facebook ④Instagram ⑤その他

⑩ＳＮＳアカウントをいくつ持っていますか？利用しているそれぞれのＳＮＳごとにお答えください。また、複数持っている理由・使い分け方をお答えください。（必須）

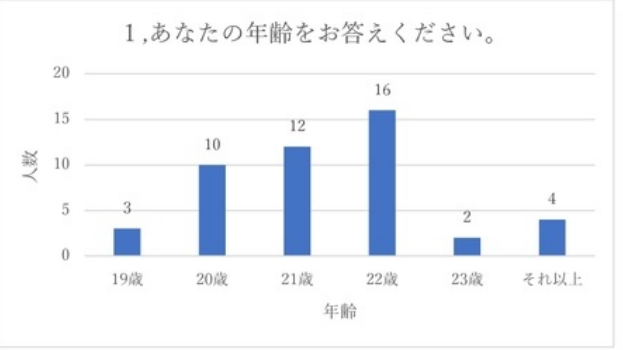
⑪ＳＮＳを利用している際、ストレスを感じる・感じていたことはありますか？（必須）

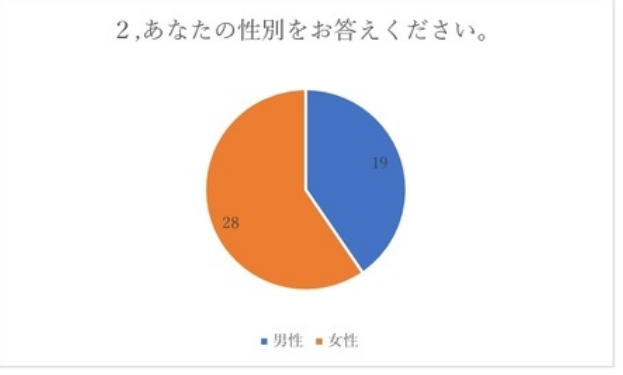
・よく感じる ・時々感じる ・たまに感じる程度 ・全く感じない

⑫⑪で「よく感じる」「時々感じる」「たまに感じる」を選んだ方に質問です。どのようなことがストレスに感じますか？（必須）

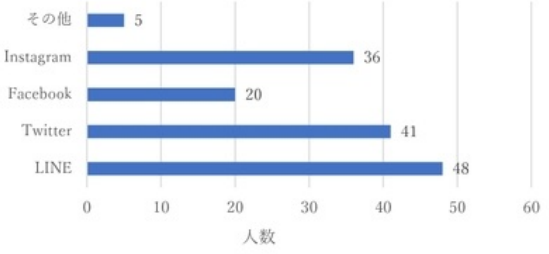
⑬ＳＮＳでトラブルになったことはありますか？ある方は、どのようなトラブルになりましたか？（必須）

【調査結果】



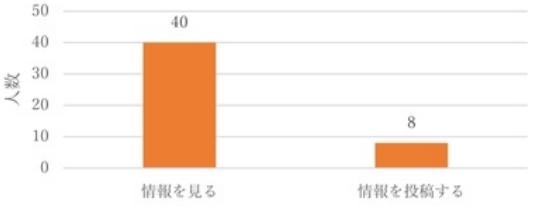
６,３で「利用している」「過去に利用していた」を選んだ方に質問です。利用しているまたは利用していたSNSはどれですか？




３,あなたはSNS（例：LINE・Twitter・Facebook・Instagram
等）を利用していますか？

※設問③の回答項目「利用している」が一〇〇％であったため、設問④⑤はデータなし

７,あなたがＳＮＳを利用するのは、大きく分けてどのような目的ですか？割合が大きい方を選んでください。



| 設問⑧ | 毎日 | 週に1日か2日利用しない日がある | 週に2~3日利用する程度 | 週1日 | 月に2～3日 | その他 | 未使用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| LINE | 41名 | 5名 | 2名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| Twitter | 35名 | 2名 | 4名 | 1名 | 1名 | 0名 | 5名 |
| Facebook | 5名 | 0名 | 5名 | 3名 | 4名 | 1名 | 30名 |
| Instagram | 24名 | 4名 | 5名 | 1名 | 1名 | 1名 | 12名 |
| その他 | 2名 | 0名 | 2名 | 1名 | 2名 | 2名 | 39名 |

| 設問⑨ | 連絡手段 | 近況報告 | 思い出の共有 | 情報収集 | 周りがやっているから | 未使用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| LINE | 48名 | 6名 | 11名 | 6名 | 7名 | 0名 |
| Twitter | 9名 | 14名 | 12名 | 40名 | 5名 | 5名 |
| Facebook | 2名 | 6名 | 7名 | 8名 | 3名 | 30名 |
| Instagram | 2名 | 11名 | 18名 | 22名 | 10名 | 12名 |
| その他 | 5名 | 2名 | 1名 | 1名 | 1名 | 38名 |

設問⑫　回答まとめ

・アプリの機能が不十分
・人間関係において、義務感を感じる
・いらない情報が多い
・悪口を言っているのを見てしまったとき、自分のことを言われているように感じる。（７名）
・自分の主張を押し付けるような内容の投稿（４名）
・返信がなかなか返ってこない（２名）
・LINE の返信が面倒に感じる。（既読をつけてしまうとすぐに返信しなければならないと感じるため）（３名）
・文字でのやり取りなので相手にきちんと意味が伝わっているかわからない（２名）
・既読無視
・不適切な画像が流れてくる（４名）
・友人関係が見えやすい（３名）
・なんとなく

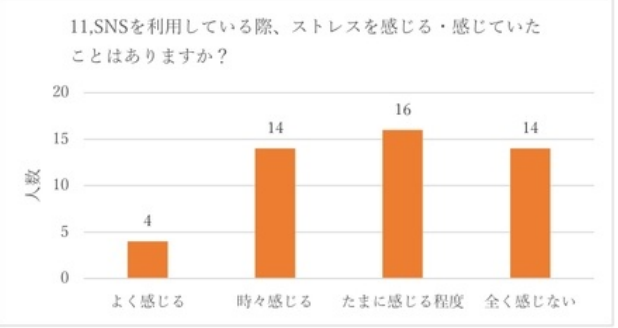
等

| 設問⑩ | １つ | ２つ | ３つ | ４つ | ５つ | それ以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| LINE | 48 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| Twitter | 7 名 | 9 名 | 7 名 | 0 名 | 1 名 | 2 名 |
| Facebook | 10 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| Instagram | 20 名 | 0 名 | 2 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| その他 | 6 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |

設問⑩　アカウントを使い分けている理由

・趣味用と仕事、学校用（７名）
・所属する団体によって使い分けるため（３名）
・高校から大学に進学する際にアカウントを新しく作りなおしたため
・限られた友達にしか公開していないアカウントが別にあるため（２名）

等



設問⑬　回答まとめ

・陰口が原因で喧嘩をした（２名）
・きつい言葉遣いになってしまう
・発言が炎上したことがある
・既読無視
・悪口の投稿内容が自分のことではないかと思ってしまい、気まずくなった
・Twitterで男友達にリプライを送ったら、男友達の彼女が怒ってしまった

等

【結果と考察】

アンケート結果を分析すると、アンケートに協力していただいた全員がＳＮＳを日常的に利用しており、なおかつ全員がLINEを利用しているという結果になった。LINEの次に利用率が高かったＳＮＳはTwitterで、その次にInstagram、Facebookと続いた。これは設問⑨の結果から、周りのほとんどがLINEを連絡手段として使用しているため圧倒的な使用率になったと思われる。また、LINEを利用する頻度は週に二～三日は最低でも利用するという結果であったが、これも連絡手段に利用するという回答が多かったことが要因であると考えられる。しかし、相手からの返信がなかなか返ってこなかったり、あるいは既読無視をされてしまったり、反対に自分が返信するのが面倒だと感じたりするという回答が得られた。これらの回答は、第二章で取り上げた返信しないといけない圧力が働いていることが伺える。

Twitterの利用者のほとんどが情報収集のために毎日利用しているという結果になった。この結果から、設問⑦のＳＮＳ利用の目的が「画像や動画、つぶやきを見る等の情報を見る目的」に偏ったと考えられる。また、Twitterも毎日利用するという回答が最も多かった。アカウントを複数所有し使い分けているといった回答が多く、所属する団体ごとで使い分けたり仕事や学校とは別で趣味用のアカウントを使い分けているという回答が多く見られた。この結果は、Instagramの利用者でもあてはまるが、Twitterとの違いは情報収集が目的で利用する人数と思い出の共有に利用する割合に大きな差がないことである。デジタルアルバムのような使い方をすることが多いＳＮＳならではの回答となった。

ＳＮＳ利用時にストレスを感じる方が多いという結果になったが、常にストレスを感じている訳ではなく、ふとした時にストレスを感じることが多いようである。最も多かった回答が「悪口を言っているのを見てしまったとき、自分のことを言われているように感じる。

（7名）」であったが、この結果「陰口が原因で喧嘩をした（2名）」「悪口の投稿内容が自分のことではないかと思ってしまい、気まずくなった」といったトラブルに発展するケースが少なからずあることが分かった。また、「文字でのやり取りなので相手にきちんと意味が伝わっているかわからない（2名）」といったストレスは実際に顔を合わせてやり取りを行わないＳＮＳ特有のストレスである。相手の表情や声のトーンがわからないため、字面で判断された発言が炎上してしまうトラブルにつながったと考えられた。

ストレスやトラブルのほとんどがＳＮＳ特有の機能や同調圧力によるものであった。ＳＮＳを使わなければ友達に会えない様な状況ではないからか、自分自身の環境によってＳＮＳを使わざるを得ないことに対するストレスは回答されなかった。しかし、今回、ＳＮＳ利用率が一〇〇％であり、なおかつほとんど連絡手段として利用される LINE の利用率も一〇〇％であった。このことより、現代での連絡手段は LINE が主流であるため LINE を利用していないと不便なことが多くなることが予想される。これらのことより、「LINE を利用しようとは思っていなかったが、連絡手段の主流が LINE に移り変わったため LINE を利用せざるを得なかった」と考えている人々が存在したかもしれないと考えられた。

## 最終章　まとめ

第一章第一節では、ＳＮＳそのものについての簡単な使用方法について調査し、利便性や問題点をまとめた。無料で行うことができるチャットや通話、写真や短い文章の投稿などによる情報の拡散量やそれを拡散するスピードは、過去とは比べ物にならない。私たちの日常生活で利用するのはもちろん、企業の公式ＰＲにＳＮＳが利用されるなど、活用の幅は現在も広がりを見せている。それと同時に、高い匿名性や拡散スピードが悪用し、社会問題化してしまうケースも存在する。もちろん、非常識な投稿やデマを流す者が悪いのだが、私たち自身もその情報が本当に信用できるものなのか見極め、自分自身がモラルの欠けた投稿を食い止める必要があると感じた。また、第二節では通信機器とコミュニケーションツールの移り変わりについて調査し、年表にまとめた。通信機器が変化していくと同時にコミュニケーションツールもより便利で簡単なものに変化していき、私たちの生活の一部となっていった。それと同時に、技術の進化に伴ってセキュリティ対策などの問題が浮き彫りになったため、インターネットに関する新しい法律や条例が作られていった。しかし、インターネットに関する法律や条例は次々に進化するインターネット技術に追い付いておらず、今後さらに法律の整備が必要になると思われる。

第二章では、コミュニケーションツールの発展と「ＳＮＳ疲れ」の関係性と、若者を取り巻いている環境とＳＮＳの関係性をまとめた。第一節では、LINE などのコミュニケーションツールを利用する際に感じるストレスである「ＳＮＳ疲れ」について取り上げた。ＳＮＳが持つ便利な機能によって大きくコミュニケーション方法が変化し、便利になったが、新たに「既読無視」などの概念を生み出し、便利な一方で気軽にコミュニケーションを楽しむことができない人々がいることを述べた。また、人間が持つ「承認欲求」やＳＮＳでの友達の数や「いいね！」・リツイートの数が多いほど他者に認められていると考える傾向により、「リア充な自分」を演出するツールになってしまっていることについても述べた。リア充に見せる演出によって必要以上に自分をよく見せ、多くのコメントや「いいね！」を獲得するために身の丈に合わない出費や行動をしてしまう「ネタ消費」という現象についても取り上げた。さらに、第二節では、第一節で取り上げた同調圧力や承認欲求以外にＳＮＳを辞められない原因を探した結果、家庭や学校での友達関係などの周りの環境が原因になっていると考えられた。自分のプライバシーを守るために「ＳＮＳ上でプライベートなことを公開しない」という手段ではなく、「あえてプライベートをＳＮＳ上で公開することによって余計な詮索をけん制する」という手段が使われていた。また、近年子どもを狙った犯罪などが増えたことにより、親が子どもに外出の許可を出さない、あるいは親が子どもの一日のスケジュールを過剰に管理することが多くなった。この結果、子どもたちが友達と直接会って交流を深めることが難しくなってしまい、直接の交流の代わりにＳＮＳを利用するケースが増えていることが、ＳＮＳを辞められなくする要因になると述べた。

第三章では、身近なＳＮＳの利用率とＳＮＳを利用する目的、ＳＮＳを利用していて起こ

ったストレスやトラブルの有無についてのアンケート結果とそれに対する分析と考察をまとめた。アンケートに協力してくださった方々全員がＳＮＳを日常的に利用していることをはじめ、どのような目的でＳＮＳを使い分けているのか、また、どのようなことでストレスを感じたのか、トラブルに巻き込まれたかどうかの有無も知ることができた。

現代は人と人とのつながりや助け合いの重要性が強調された「絆の時代」であると言える。この傾向は二〇一一年に発生した東日本大震災の後、より一層強くなった。それに伴い、操作が簡単かつリアルタイムでやり取りができる LINE をはじめとするＳＮＳが爆発的に大流行した。ＳＮＳの登場によってコミュニケーションにかかる時間や手間は昔と比較して大幅に改善され、生活に大きく貢献している様に思われているが、その一方で新しいタイプのストレスや問題点を生み出している。本来、ＳＮＳとはインターネット上で友達や家族、同じ趣味を共有するもの同士で社会的なつながり（ソーシャルネットワーク）をもつためのサービスである。しかし、自分が世間からどのように思われているのかを過剰に気にしてしまい、自分を飾り付けて投稿することや、個人的な意見・感想の押し付けを投稿する利用者が増えてきている。また、注目を集めるためにモラルの欠けた投稿やデマ情報の拡散を行ったり、自分のインターネットに関する知識や技術を見せびらかす目的でハッキングや不正アクセスなどの犯罪行為に手を染める者も出てくるようになった。さらに、ＳＮＳを利用することによってストレスを感じるが、周りの同調圧力やＳＮＳを使わぜるを得ない状況に追い込まれていたりすることによって、さらに「ＳＮＳ疲れ」を加速させてしまうことも問題である。アンケート調査においても、文字でのやり取りのみで判断されるためにきちんと相手に真意が伝わらず炎上してしまったり、メッセージアプリ特有の「既読機能」による早く返信を返さなければならないと感じる空気の圧力がストレスと感じる人々が見受けられた。

先ほど述べた本来のＳＮＳの使用用途から大きく外れた利用者だが、ＳＮＳの利用自体を差し止めるのではなく、ＳＮＳに過剰に没頭してしまうことをやめることやネットリテラシーについて学ぶことができれば、インターネットの正しい使い方を会得することができるのではないだろうか。実際に、子どもの頃からパソコンに関する基本的な操作や本論文で取り上げた様なインターネットに関する問題について考えさせるために、二〇〇二年より小中学校の総合学習の時間や技術・家庭科の時間を利用して情報とコンピュータに関する授業を展開したり、高校では「情報」の教科を新たに開講するなどの取り組みがなされている。このような少年期からのネット教育の取り組みが健全にインターネットを利用する第一歩である。また、子どもの親をはじめとする大人たちは、子どもたちがＳＮＳを利用することを絶対悪ととらえることをやめる必要がある。子どもたちがＳＮＳを利用する背景を理解し、親である自身が子どもたちに不自由な思いをさせていないか今一度確認するべきであろうと考えた。そして、特に若者に当てはまることであるが、必要以上に他人の目を意識して生活しなければならないということはなく、さらにＳＮＳで他人の生活が見えるため、そのことを気にして自分と他者を比較することもしなくてよいということを自覚し

てほしい。「既読無視」によって崩れるような友情は本当の友情とは呼べないし、他者と自分を比較して悲観することがどれほど馬鹿げていることであるのかを知っていることで、本来感じるべきではない無駄なストレスである「ＳＮＳ疲れ」を軽減させることができると思われる。

ＳＮＳを利用するにあたってすべての利用者に共通して言えることは、「パソコンやスマホ画面の向こう側には生身の人間がいる」ということを意識しなければならないということ、さらに、「情報を公開する際にはその投稿に全責任を持つ」ということを自覚することである。ＳＮＳ上のほとんどの投稿は、生身の人間がコンピュータを操作して投稿しているということを認識していれば、悪口や差別的な投稿をしようとは思わないだろう。自分が他者からＳＮＳ上で悪口や批判をされていると感じたことがあるのならば、言われた側の立場に立って物事を考えることは容易にできるはずであるので、そのことを念頭に置いてインターネット上での振る舞いを見直すべきである。また、自分が投稿した情報はＳＮＳ上の友達のみが閲覧しているわけではなく、知らない人々にも閲覧されている可能性があることを確認しておかなければならない。インターネット上の情報は誰でも簡単に閲覧できる時代であるからこそ、自分の投稿が赤の他人に見られていないという保証はどこにもないのである。ここまで述べた内容は、現在利用されているコミュニケーションツールに限られたことではなく、今後新たに開発されるであろうＳＮＳを利用する際にももちろん適用される。「絆の時代」に開発されたＳＮＳで絆を破壊してしまうようなことは絶対に避けなければならない。そのためにＳＮＳを利用している私たちが意識や環境を改善することが、今後のＳＮＳを快適に利用するための課題となる。

# テキスト・参考文献・参考サイトリスト

【参考文献】

・『ソーシャルメディア中毒　つながりに溺れる人たち』
　著：高橋暁子　幻冬舎　二〇一四年発行

・『デジタルネイティブの時代　なぜメールをせずに「つぶやく」のか』
　著：木村忠正　平凡社　二〇一二年発行

・『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』
　著：香山リカ　朝日新聞出版　二〇一四年発行

・『つながり進化論　ネット世代はなぜリア充を求めるのか』
　著：小川克彦　中央公論新社　二〇一一年発行

・『つながりっぱなしの日常を生きる　ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの』
　著：ダナ・ボイド　訳：野中モモ　草思社　二〇一四年発行

【参考サイト】

・「LINE ホームページ」　https://line.me/ja/
閲覧日　二〇一八年一一月九日

・「Facebook（フェイスブック）とは？」　fb-guide.net/article-1/
閲覧日　二〇一八年一一月九日

・「インスタグラムとは？　他のＳＮＳとの違いは？」　istg-navi.net/article-1/
閲覧日　二〇一八年一一月九日

・「インターネット歴史年表」　https://www.nic.ad.jp/timeline/
閲覧日　二〇一八年七月一日

・「インターネットの主な出来事」
1995-2015　https://bbpromo.yahoo.co.jp/special/history/chronology/
閲覧日　二〇一八年七月一日

・「総務省　安心してインターネットを使うために　国民のための情報セキュリティサイト」
www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/basic/service/07.html
閲覧日　二〇一八年一一月九日）

・「日経デジタルマーケティング　あれから三年、〝震災生まれ〟のLINEが命を救い、スマホが募金プラットフォームに」
https://business.nikkeibp.co.jp/article/nmgp/20140310/260877/
閲覧日　二〇一八年一二月三日）

・「データで知る「塾・受験・教育現場」」
https://www.inter- edu.com/juku/contents/research/research- 141030/
閲覧日　二〇一八年十二月二日

・「ベネッセ教育総合研究所」　https://berd.benesse.jp/berd/data/dataclip/clip0006/
閲覧日　二〇一九年一月九日

・「インターネットの歴史　history of The Internet」　https://internethistory.yahoo.co.jp
閲覧日　二〇一八年　十二月一日